

釧路町ゼロカーボン

実現戦略計画

資料編

目次

資料 1 町民アンケート	1
1-1 回答者の属性.....	1
1-2 町民アンケート 要点	3
1-3 再生可能エネルギーについて	4
1-4 脱炭素について.....	12
1-5 再生可能エネルギー・脱炭素への取り組みに向けて	18
資料 2 事業者アンケート	20
2-1 回答者の属性.....	20
2-2 事業者アンケート 要点	21
2-3 再生可能エネルギーについて	22
2-4 脱炭素について	26
2-5 再生可能エネルギー・脱炭素への取り組みに向けて	32
資料 3 太陽光発電システム補助事業の利用者アンケート.....	33
3-1 太陽光発電システム補助事業の利用者アンケート 要点	33
3-2 太陽光発電について	34
3-3 蓄電池について	38
3-4 制度について	40
資料 4 再生可能エネルギーのポテンシャル量の算出方法	42
4-1 再生可能エネルギーの概要	42
4-2 釧路町の再生可能エネルギーのポテンシャル.....	44
4-3 各電源のポテンシャルの算出条件.....	45
資料 5 CO2 排出・削減量の算出	49

資料1 町民アンケート

脱炭素・再生可能エネルギーの導入に関する町民アンケート調査結果

【対象】釧路町内の住民

【回答】335 /1200 人 （回答率 27.9 %）

1-1 回答者の属性

お住まいの地区

回答	回答（件）	割合(%)
別保地区	25	7.5%
東陽・中央地区	45	13.4%
遠矢地区	76	22.7%
昆布森地区	9	2.7%
セチリ太地区	162	48.4%
無回答	18	5.4%
合計	335	100.0%

性別

回答	回答（件）	割合(%)
男性	244	72.8%
女性	81	24.2%
その他	0	0.0%
答えたくない	2	0.6%
無回答	8	2.4%
合計	335	100.0%

世帯主の年齢

回答	回答（件）	割合(%)
15 歳以上 18 歳未満	0	0.0%
18～29 歳	8	2.4%
30～39 歳	28	8.4%
40～49 歳	51	15.2%
50～59 歳	61	18.2%
60 歳以上	180	53.7%
無回答	7	2.1%
合計	335	100.0%

世帯主の職業

回答	回答（件）	割合(%)
公務員	31	9.3%
経営者・役員	20	6.0%
会社員	89	26.6%
自営業	37	11.0%
フリーランス業	2	0.6%
専業主婦	14	4.2%
パート・アルバイト	29	8.7%
学生	1	0.3%
その他	103	30.7%
無回答	9	2.7%
合計	335	100.0%

家族構成

回答	回答（件）	割合(%)
一人暮らし	67	20.0%
配偶者と同居	117	34.9%
配偶者・子どもと同居	78	23.3%
子どもと同居	23	6.9%
親・配偶者と同居	2	0.6%
親・配偶者・子どもと同居	10	3.0%
親・子どもと同居	6	1.8%
親と同居	18	5.4%
その他	6	1.8%
無回答	8	2.4%
合計	335	100.0%

※「世帯主の年齢」について「15 歳以上 18 歳未満」の回答が 0 件だったことから、以下に示すグラフでは、この項目について省略することとする。

1-2 町民アンケート 要点

再生可能エネルギー

家庭内導入について	既に認知されている方は多く、7 割以上を占めるが、使用については、「使用したいが具体的な予定はない」方が約 4 割、「全く検討していない」方が約 5 割で導入には、至っていない。
家庭内導入の課題	「費用が高い」ことが最も多くの原因として挙げられている。また、全く検討していない理由として「使用方法を調べたが、費用が高い」、「興味がない」ことが挙げられた。
町内の推進について	積極的な意見が 8 割以上を占めた。一方で、「景観や自然保護への配慮」、「廃棄パネルの処理」への懸念に関する意見も得られた。このことから、自然と共生した持続可能な施策が有効だと考えられる。

脱炭素について

「既に認知・意識している」という回答が 7 割以上を占めた。背景には、「地球温暖化」や、「異常気象」への関心がみられた。また、「将来の世代のため」という意見も複数得られた。

再生可能エネルギー・脱炭素への取り組みにむけて

「補助金・再生可能エネルギーの導入支援」に対する意見が最も多く得られた。また、取り組みに関する「積極的な情報の共有」をして欲しいという意見も多く得られた。

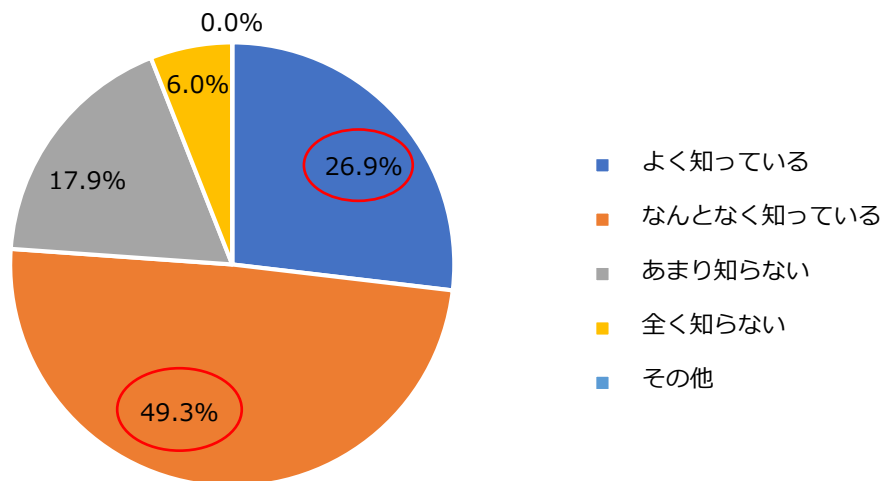
家庭でも行うことのできる、「LED の導入」や、「EV 車への乗り換え」、「省エネ行動」等の提案を施策で推進することが有効であると考えられる。

1-3 再生可能エネルギーについて

問 1. あなたは再生可能エネルギーがどのようなものか知っていますか？(単回答)

【結果】

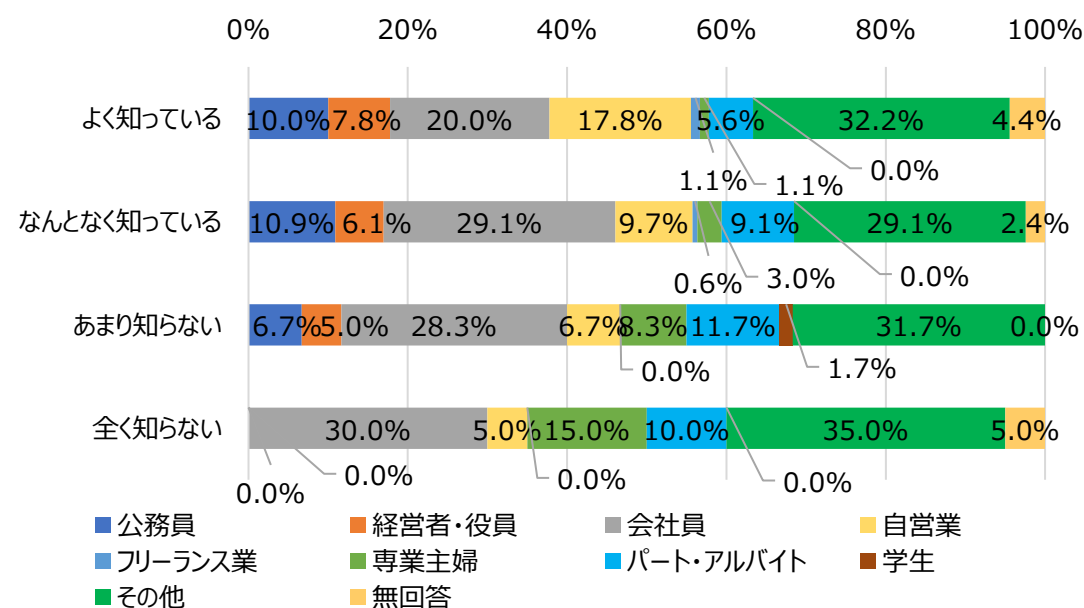
「よく知っている」、「なんとなく知っている」という回答を合わせて、知っているという回答が76.2%を占める。



回答数=335

【特徴】

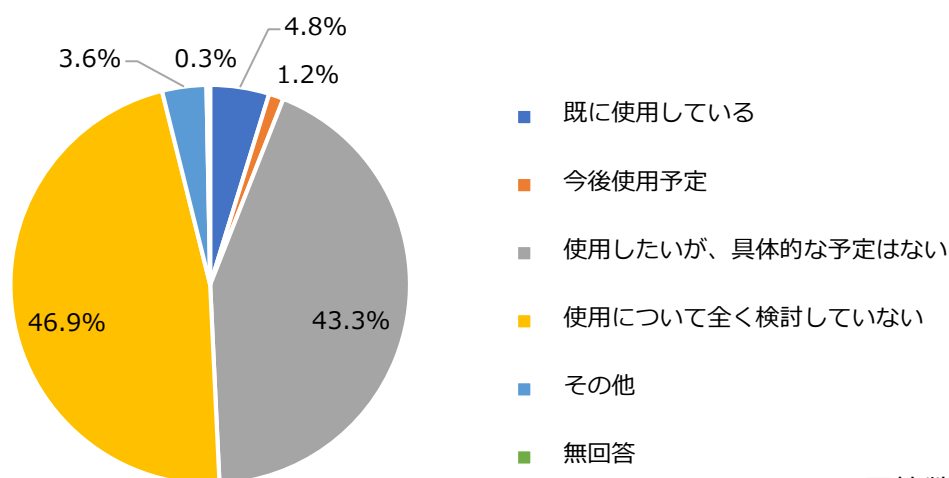
回答者の属性、「世帯主の職業」に特徴がみられた。「自営業」の方に「よく知っている」、「なんとなく知っている」方が多い傾向がみられ、「専業主婦」の方に「あまり知らない」、「全く知らない」方が多い傾向がみられる。



問 2. あなたは再生可能エネルギーを使っていますか？（単回答）

【結果】

「使用について検討していない」という回答が約 5 割を占める。



回答数=335

【その他の回答内容】

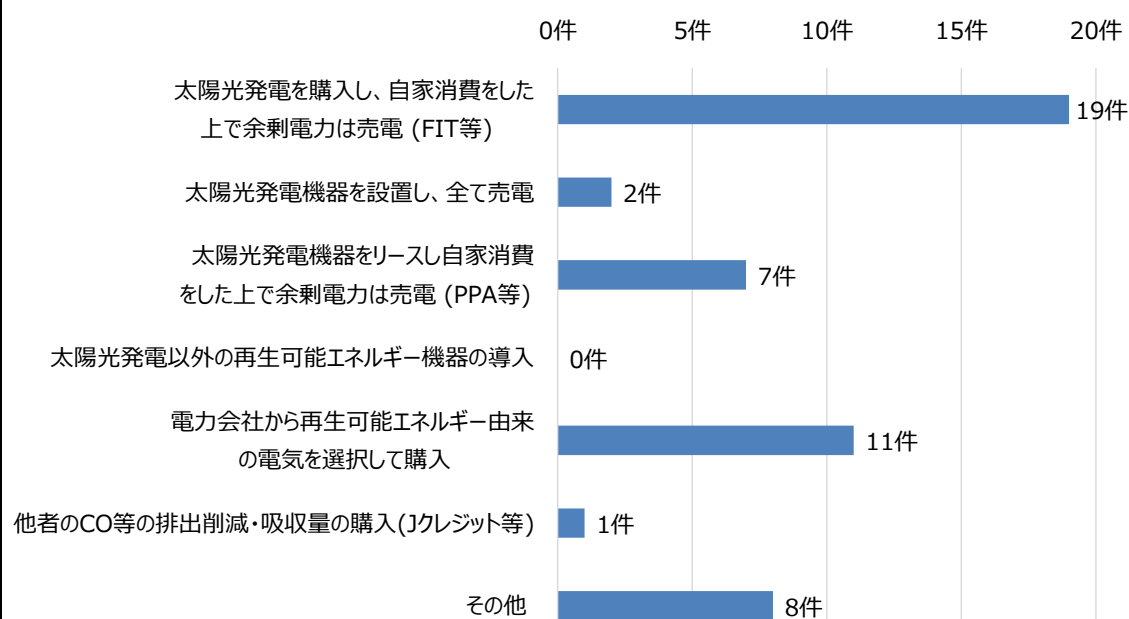
わからない (3)

小型太陽光発電の使用、予算がない、使用に反対

問 3. 問 2 で「既にある使用している」「今後使用予定」とお答えした方にお伺いします。使用はどのような方法でしょうか？（複数回答）

【結果】

売電をしている家庭が多い。「太陽光発電以外の再生可能エネルギーを購入している」という回答はなかった。

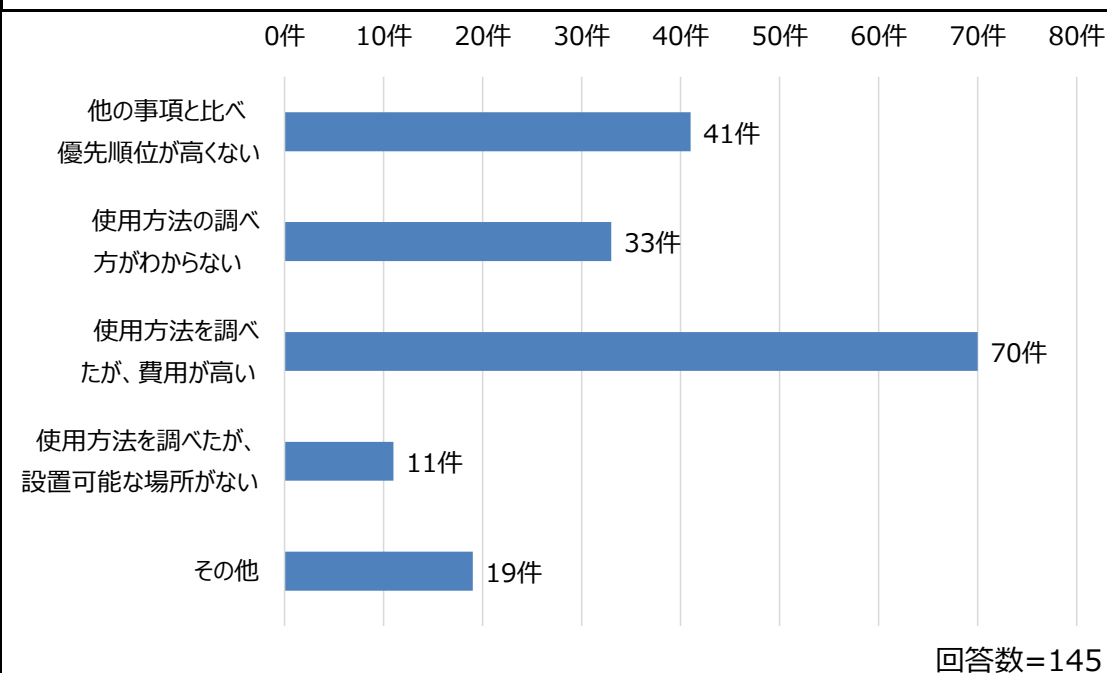


回答数=20

問 4. 問 2 で「使用したいが、具体的な予定はない」とお答えした方にお伺いします。未検討となっている理由はなんですか？（複数回答）

【結果】

「使用方法を調べたが、費用が高い」という回答が一番多い。

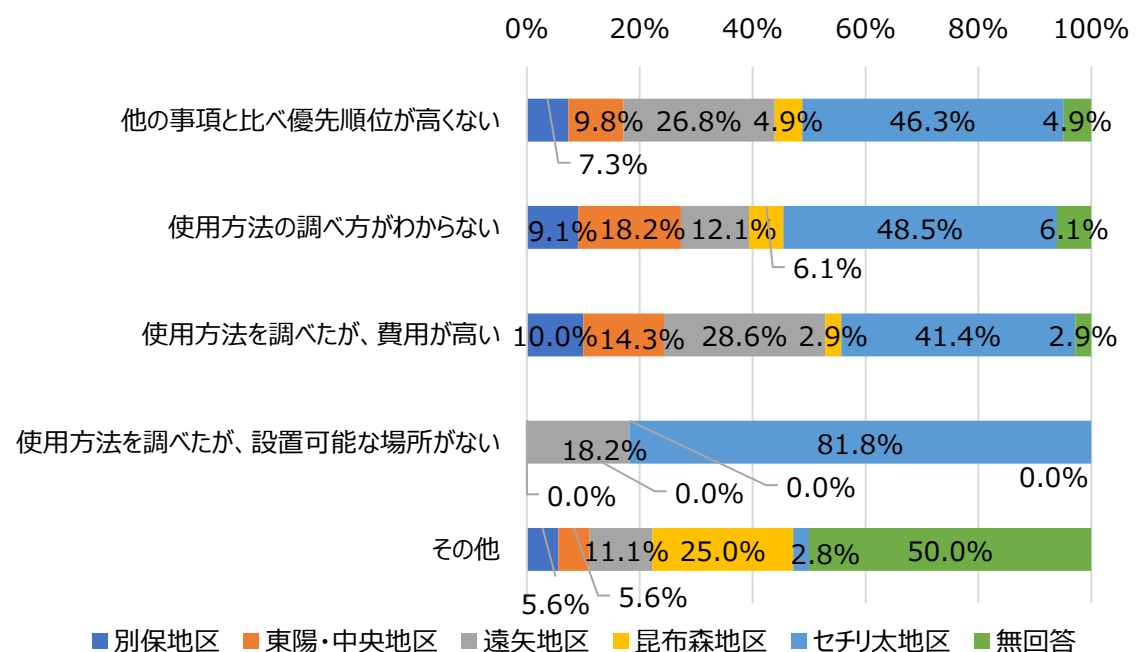


【その他の回答内容】

分類	回答内容
住環境について（回答数:5）	アパート住まい、一人暮らし、立地
費用の問題（回答数:4）	費用がない、設置費用が高い
年齢（回答数:4）	高齢のため
その他（回答数:2）	計画がないため、自分の意志では不可能

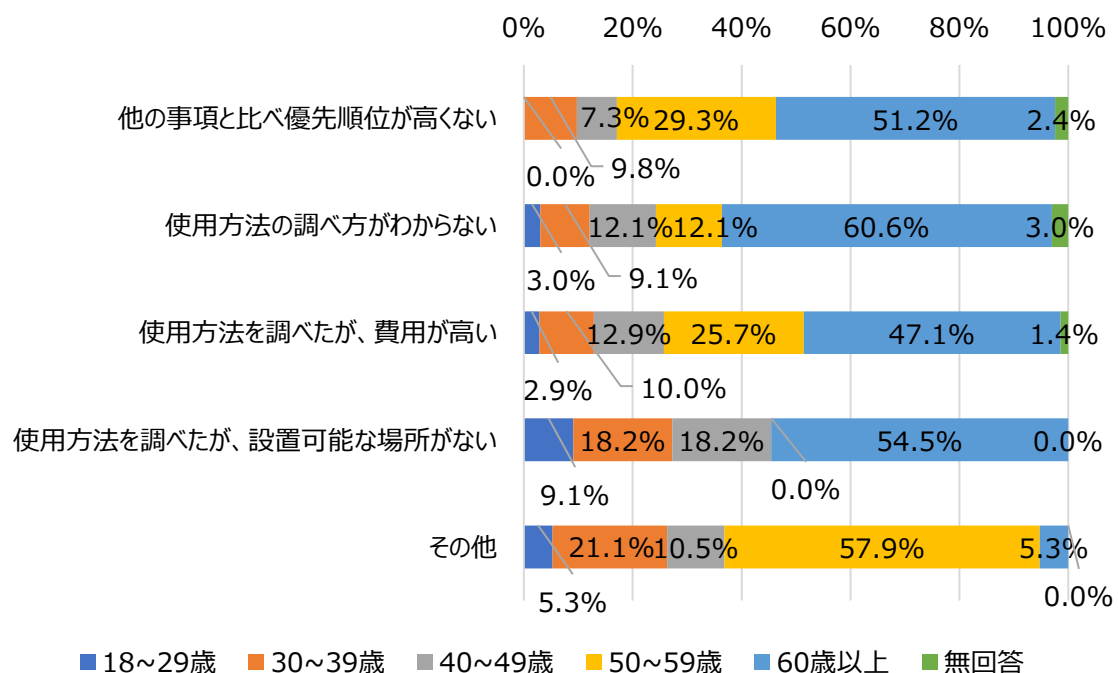
【特徴 1】

回答者の属性、「お住まいの地区」に特徴がみられた。「セチリ太地区」で「使用方法を調べたが、設置可能な場所がない」という回答が多い傾向がみられた。



【特徴 2】

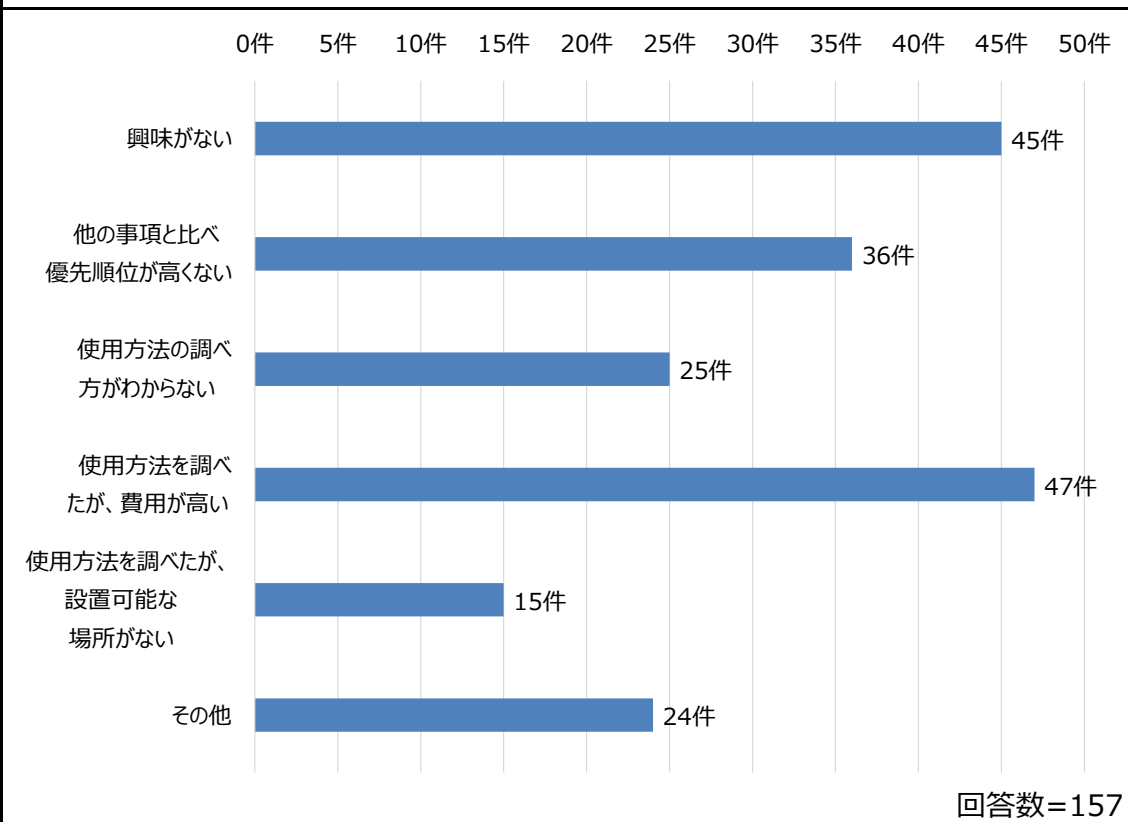
回答者の属性、「世帯主の年齢」にも特徴がみられた。「その他」を除く他項目と比較すると「使用方法を調べたが、費用が高い」について「60 歳以上」の占める割合が小さい結果となった。



問 5. 問 2 で「使用について全く検討していない」とお答えした方にお伺いします。その理由は何ですか？（複数回答）

【結果】

「使用方法を調べたが、費用が高い」、「興味がない」という回答が多い。



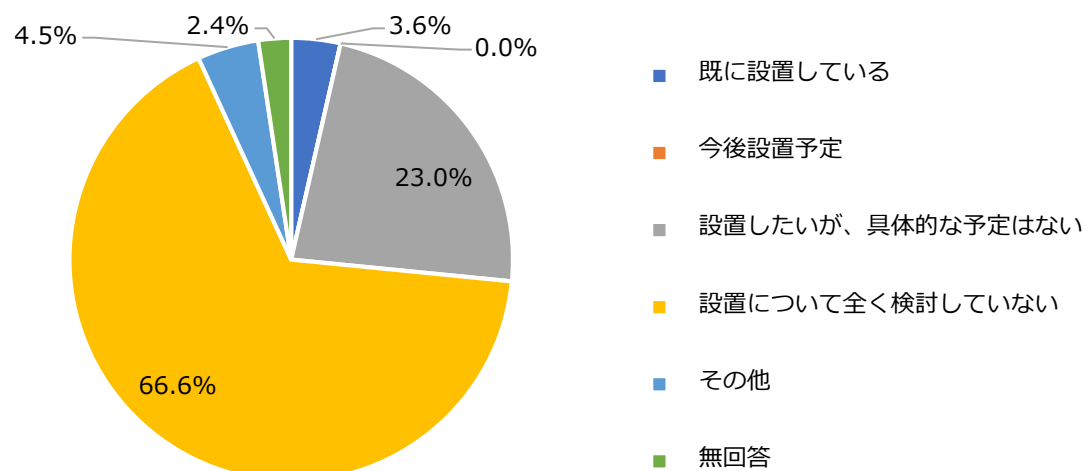
【その他の回答内容】

分類	回答内容
費用（回答数:4）	設置費用が無い
処分・交換（回答数:4）	耐用年数後のパネルの処理費用や方法が不明、心配
環境・公害（回答数:4）	パネルの有害性、再生可能エネルギーによる公害への懸念
住居（回答数:3）	賃貸、建築年数
年齢（回答数:3）	年齢的に厳しい
その他（回答数:1）	効果の妥当性

問 6. あなたは住宅用太陽光パネルを設置していますか？（単回答）

【結果】

「設置について全く検討していない」という回答が 66.6%と多くを占める。



回答数=335

【その他の回答内容】

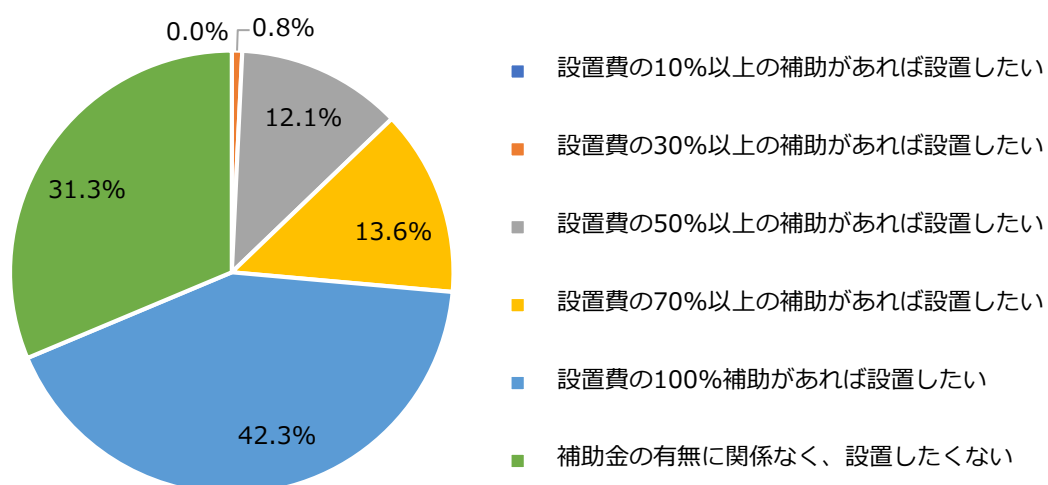
賃貸・借家のため（4）

設置可能か不明、資金がない、既にガス発電を導入しているが、化石燃料で発電した電気は蓄電できないという法律規制のため、環境汚染の実績報告

問 7. 問 6 で「設置について全く検討していない」とお答えした方にお伺いします。補助金があれば設置したいですか？（単回答）

【結果】

補助金の割合が増えるにつれて、設置したい割合が増加している。補助金の有無に関わらず、設置したくないという回答が 3 割を占める。

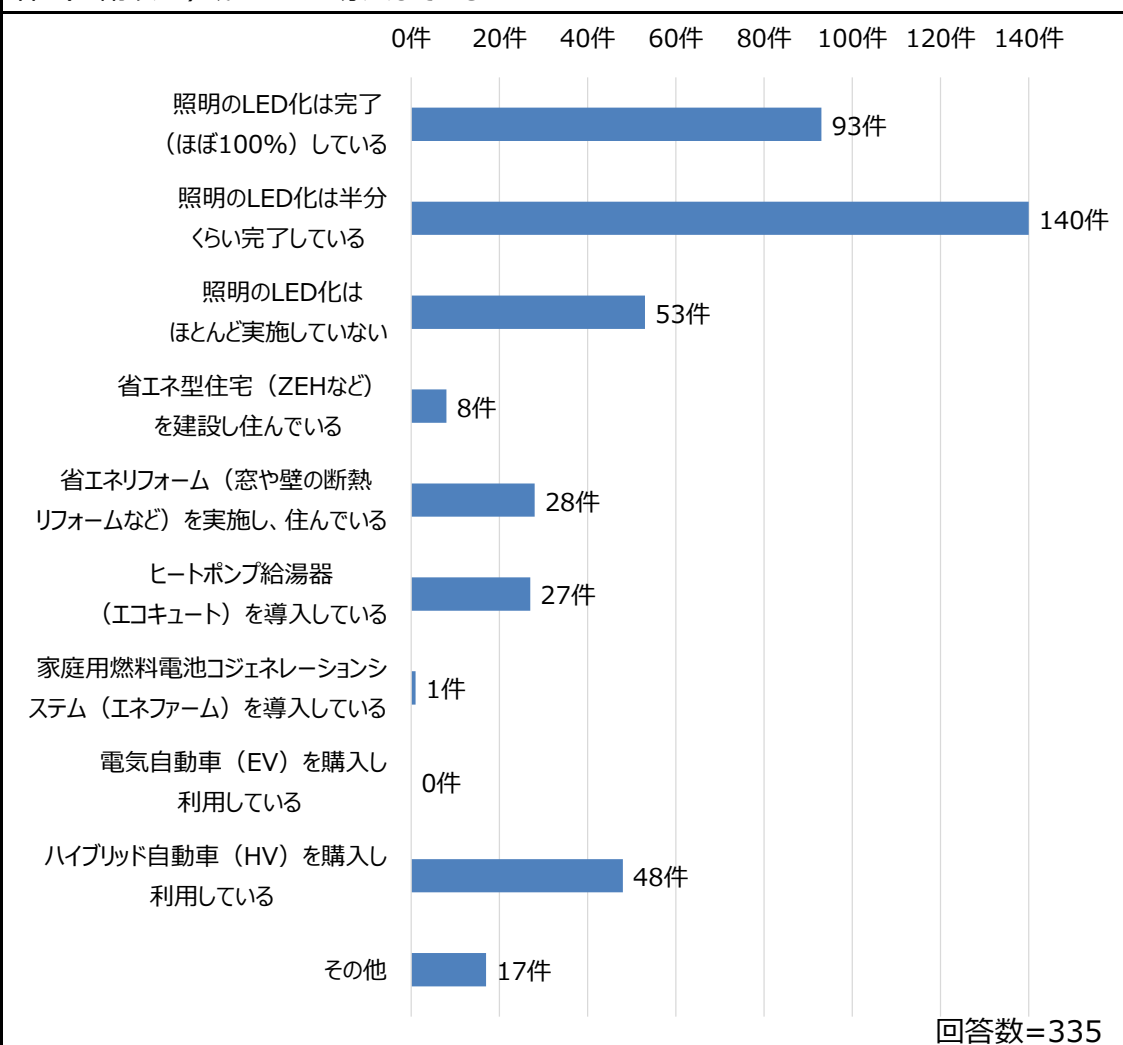


回答数=265

問 8. 家庭の省エネ対策として既に実施している取り組みはありますか？（複数回答）

【結果】

「照明の LED 化は完了している」、「照明の LED 化は半分くらい完了している」を合わせ 233 件（7 割以上）が LED を導入している。



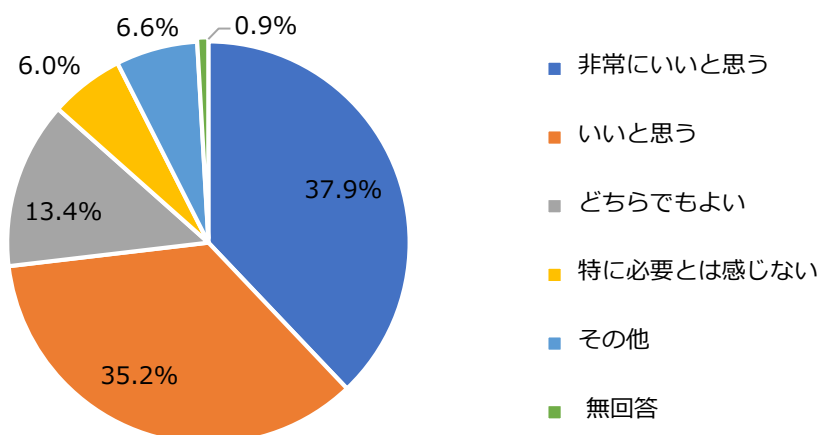
【その他の回答内容】

分類	回答内容
照明（回答数:3）	LED は 50%未満導入
住宅（回答数:3）	賃貸、借家、ログハウスに住んでいる
機器（回答数:2）	エコジョーズ（※1）、コレモ（※2）
※1）エコジョーズ：少ないガス量で効率よくお湯を沸かす省エネ性の高い給湯器	
※2）コレモ：自宅でガスから電気をつくる発電システム	

問 9. 今後、釧路町内では太陽光パネルや風力発電施設などの設置や再生可能エネルギーの推進を検討していますが、どのように思いますか？（単回答）

【結果】

「非常にいいと思う」、「いいと思う」を合わせ、前向きな回答が 73.1 %を占める。



回答数=335

【その他の回答内容】

分類	回答内容
環境・景観（回答数:10）	景観を損なわないよう、自然保護に反する、騒音、動物へ影響
パネルの処理（回答数:4）	使用後の処理方法の検討
提案（回答数:4）	既存建築物の屋根、洋上風力の利用、小型原子力発電、補助
その他（回答数:3）	ベース電源の安定化が優先、反対、どちらともいえない

問. 10 問9で「特に必要とは思わない」と答えた方にお聞きます。その理由は何ですか（自由記述）

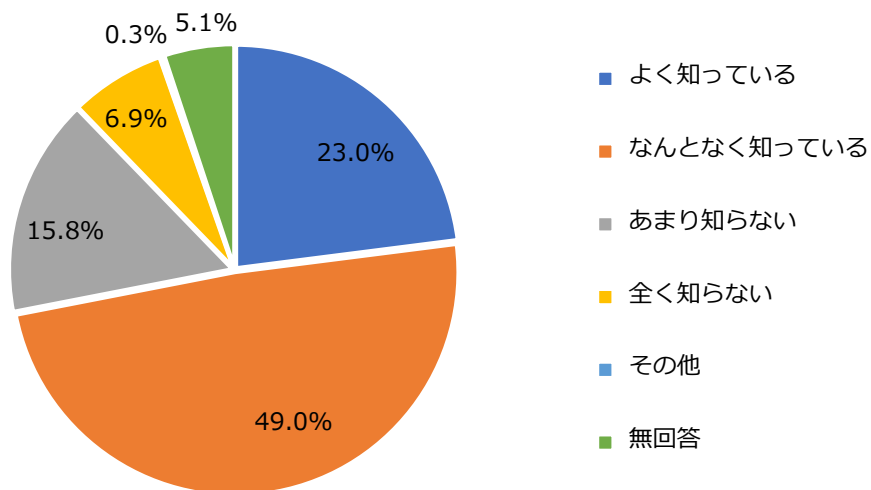
分類	回答内容
環境・景観（回答数:6）	山や湿原の景観が変わる、森林・自然破壊
費用・効率（回答数:5）	費用対効果・エネルギー効率が悪い・電気代の上昇への嫌悪、海外に資本が流れる
住居（回答数:2）	アパート、引っ越し予定
パネルの耐久性（回答数:3）	修理不可、老朽化時の廃棄、気象変化に弱く壊れやすい
その他（回答数:1）	身近に感じないためよくわからない

1-4 脱炭素について

問 11. あなたは脱炭素について知っていますか？（単回答）

【結果】

「よく知っている」、「なんとなく知っている」を合わせ、知っていると答えた方が約 7 割。

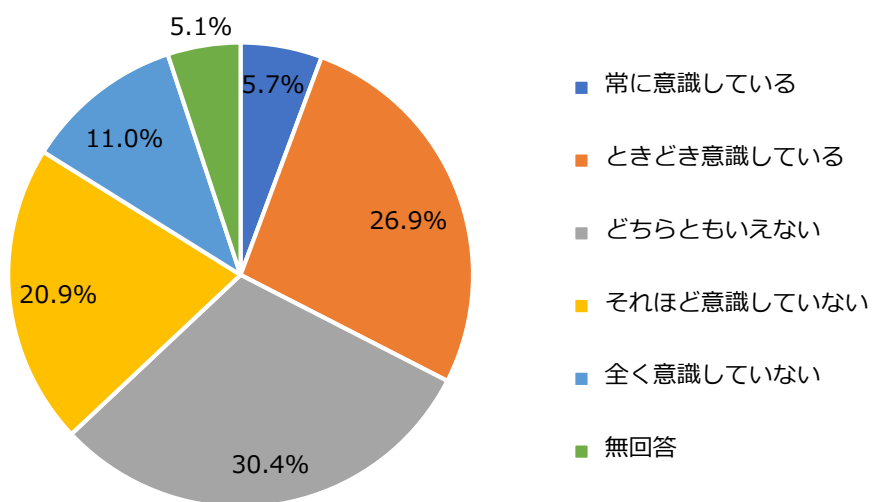


回答数=335

問 12. 日常生活において、どの程度、脱炭素に向けた行動をしていますか？（単回答）

【結果】

「どちらともいえない」という回答が 30.4%で一番多くの割合を占める。



回答数=335

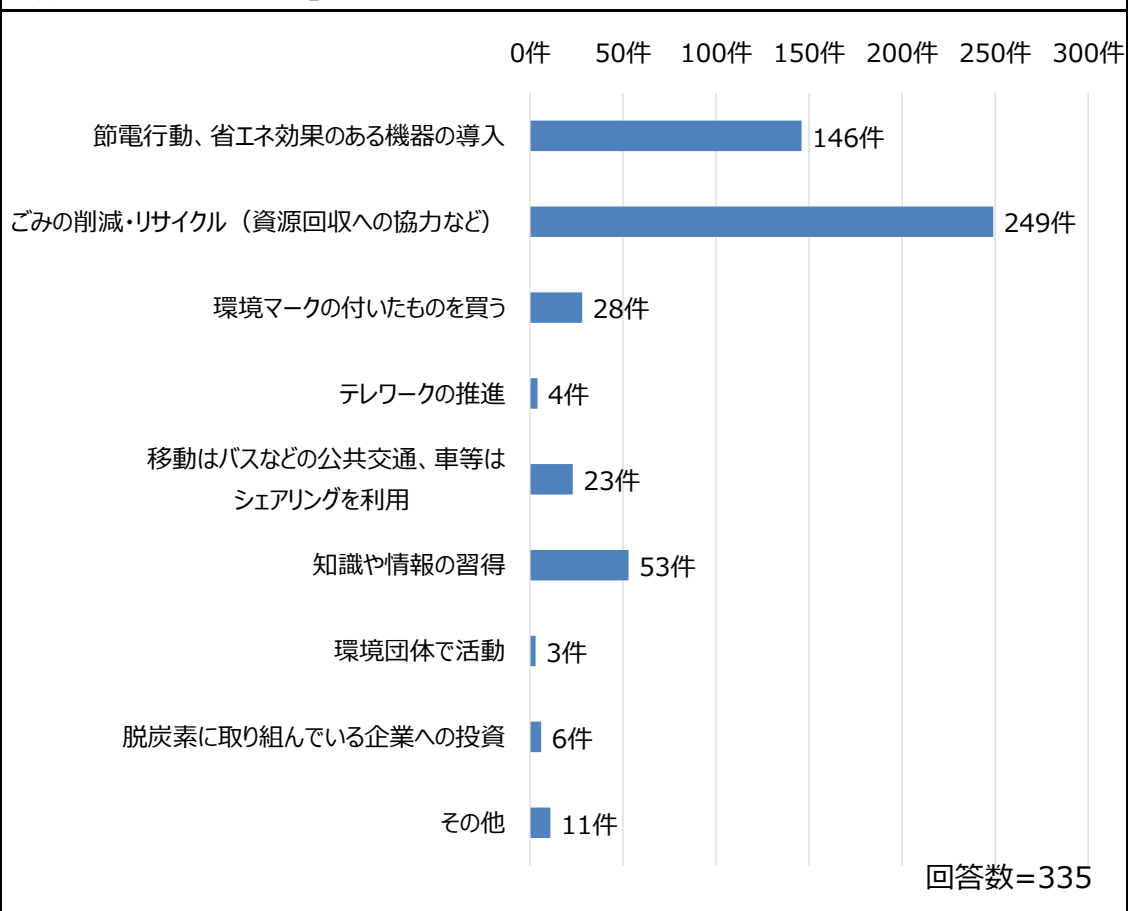
**問 13. 問 12 で「常に意識している」「ときどき意識している」とお答えした方にお聞きます。あなたが脱炭素に向けた行動をしている理由・背景として考えられるものは何ですか？
(自由記述)**

分類	回答内容
地球温暖化・異常気象 (回答数:30)	今後地球温暖化による地球全体の「悪」につながる、自然災害防止、メディアの影響、科学の進歩と地球環境保護の両立、明らかな気候変動を感じる
節電 (回答数:16)	電気をこまめに消す、電気・灯油・水道・ガス・冷暖房機器の使用を控える
移動 (回答数:16)	アイドリングストップ、車の使用を控え、自転車・徒歩を選択、ガソリンの節約
ゴミ (回答数:9)	分別、リサイクル、資源回収、ゴミの出す量を削減、不必要な買い物を控える
将来 (回答数:6)	次世代（子供たち）への持続、未来のため必要、次世代に負の遺産を残さない
行動 (回答数: 5)	早寝早起き、太陽光だけで暮らしたい、健康のため
その他 (回答数:15)	二酸化炭素が減ると微生物が減少し、微生物は二酸化炭素を吸収するのでバランスが大切、太陽光パネルが増えることへの懸念、海の昆布・海藻を守るため、気候変動に伴う作物の不作による物価上昇、地球は何事も循環していると思うから、経費の削減、世の中の流れ

問 14. 脱炭素に向けて既に実施している取り組みはありますか？（複数選択）

【結果】

「ごみの削減・リサイクル」に取り組んでいるという回答が圧倒的に多く、続いて、「節電、省エネ効果のある機器の導入」が多く挙げられている。



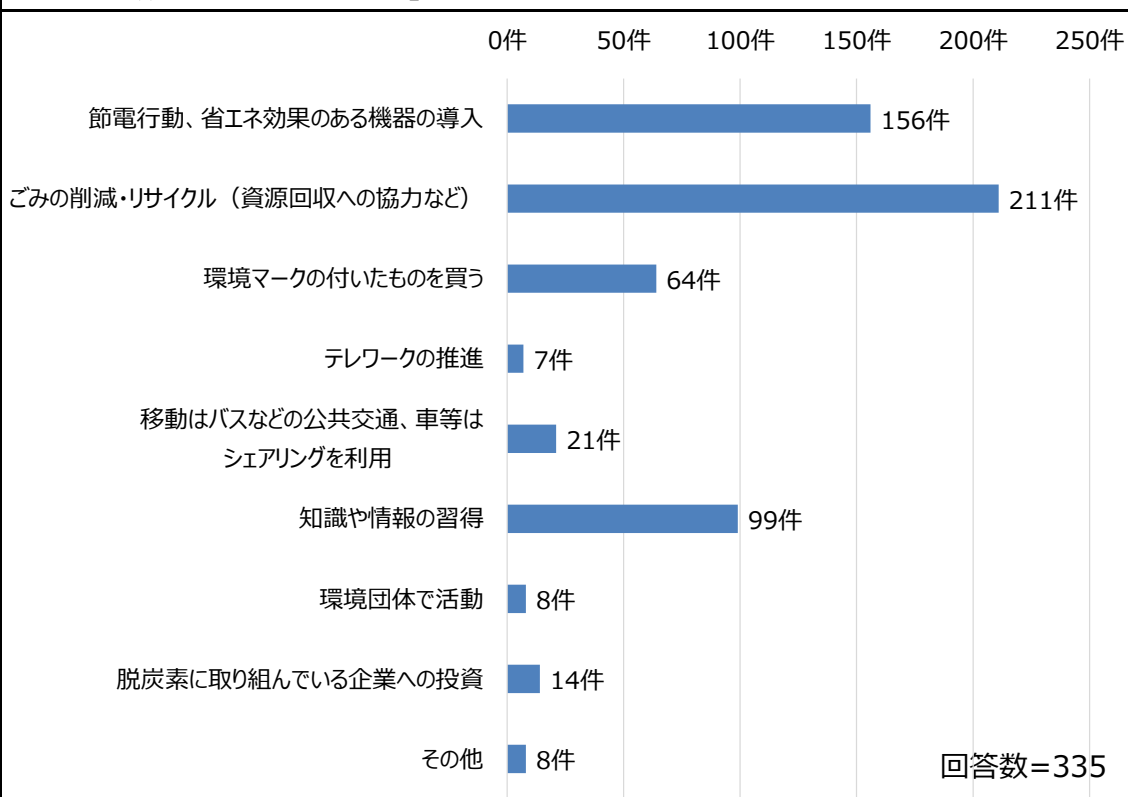
【その他の回答内容】

自転車・徒歩の推進、青少年団体の活動、脱炭素に興味がない

問 15. 脱炭素に向けて今後実施していきたい取り組みはありますか？（複数回答）

【結果】

今後実施していきたい取り組みも現在の取り組みと似て、「ごみの削減・リサイクル」、「節電行動、省エネ効果のある機器の購入」を選択した回答が多い。



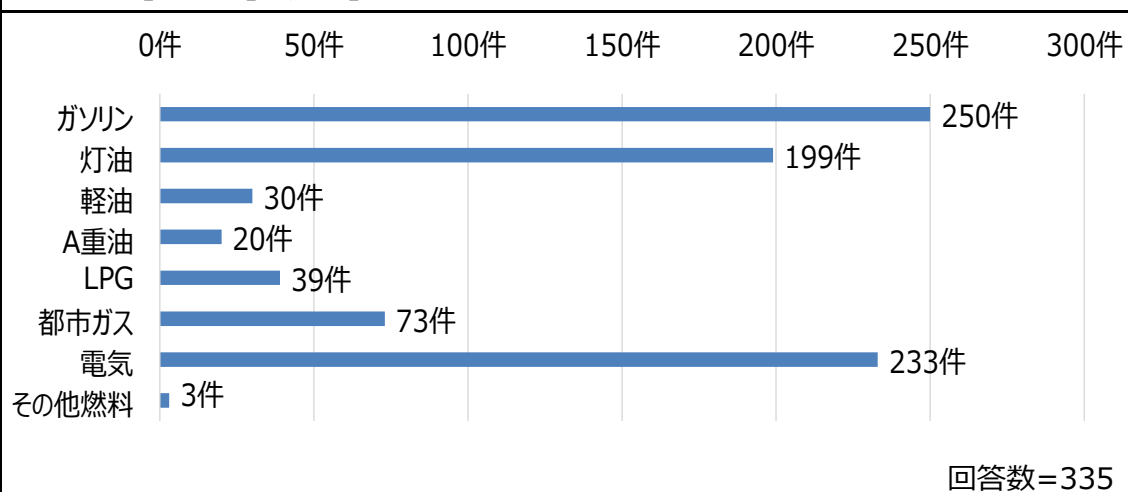
【その他の回答内容】

特になし、水素自動車の購入、脱炭素に興味が無い、自転車使用

問 16. 2021 年の 1 年間のエネルギー消費量が多いエネルギーの種類はどれでしょうか。（複数回答）

【結果】

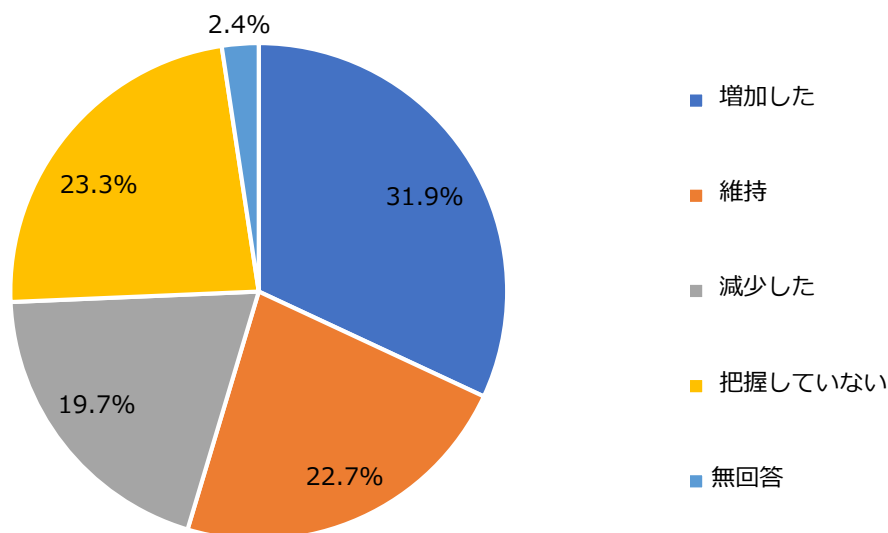
「ガソリン」・「電気」・「灯油」の順で消費量が多くなっている。



問 17. 2013 年頃のエネルギー消費量と比較し、2021 年の 1 年間のエネルギー消費量の増減をお答えください。（単回答）

【結果】

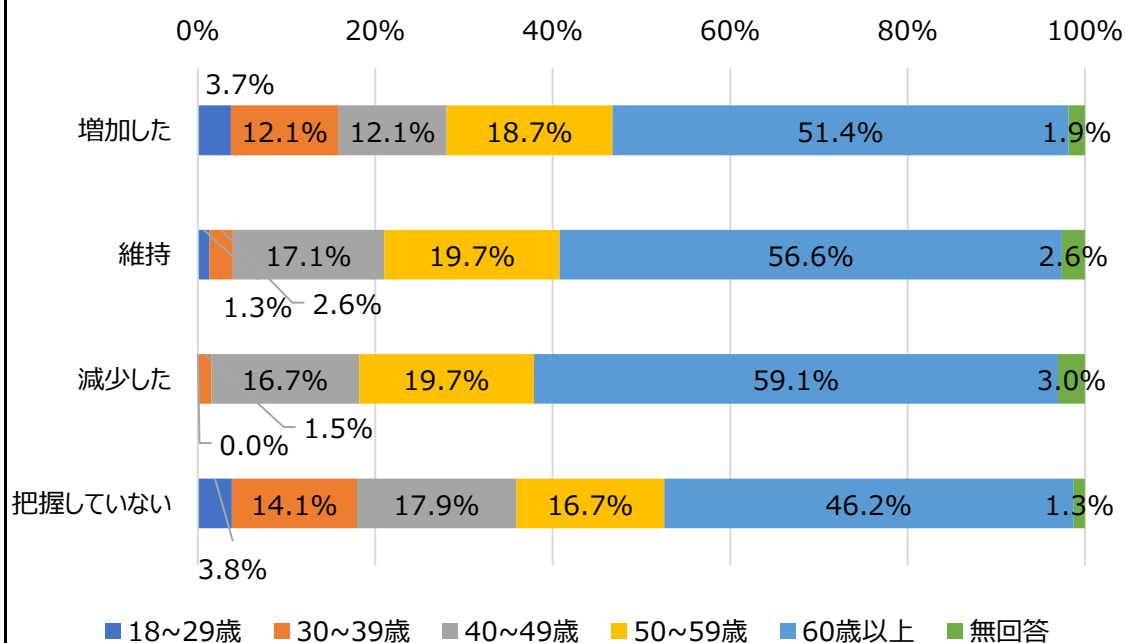
エネルギー消費量は「増加した」が 31.6%を占め全体で一番大きな割合を占める。



回答数=335

【特徴】

回答者の属性、「世帯主の年齢」に特徴がみられた。若い世代ほどエネルギーの消費量について、増加傾向がみられ、一方で高齢になるにつれ減少傾向がみられる。



問 18. 問 17 でのエネルギー消費量の増減の具体的な理由は何でしょうか？

(自由記述)

【増加の具体的な理由】

分類	回答内容
家電について (回答数:4)	冷暖房機の増加
世帯数について (回答数:11)	子供が生まれたため、子供が再就職で戻ってきた、同居に伴い、世帯数の増加
生活の変化について (回答数:13)	密を避けるための車利用、快適な生活の追求、生活の向上、子供の成長に伴う PC、ゲーム等の電子機器利用の増加
車について (回答数:3)	免許取得、自家用車の大型化
気候について (回答数:8)	寒さによる灯油の使用量の増加、寒暖差が激しくなったため冷暖房器具の利用が増加、夏が暑くなりエアコンの設置
電気について (回答数:3)	使用量の増加

【減少の具体的な理由】

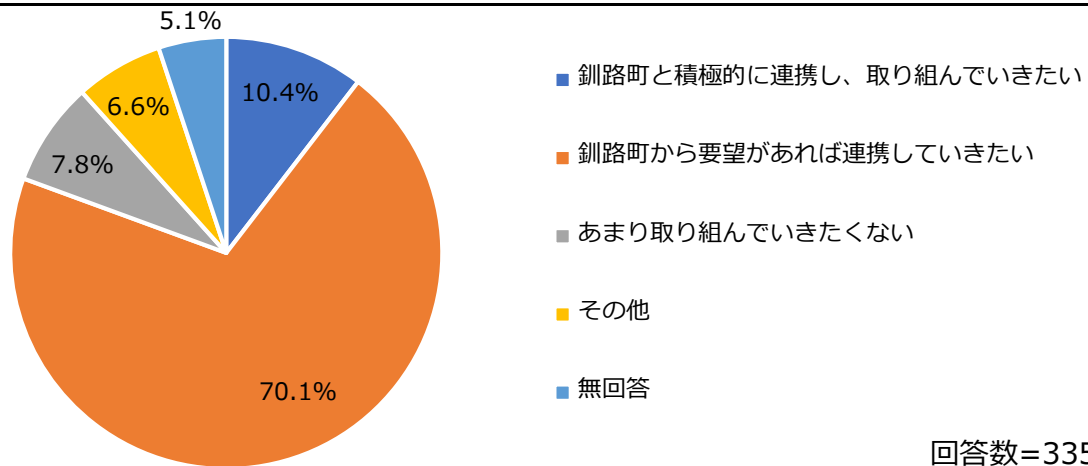
分類	回答内容
家電について(回答数:22)	LED 化、省エネ電化製品の購入・使用、ストーブの入れ替え、オール電化への切り替え、エコキュートの購入、灯油給湯暖房機からガス給湯暖房機への切り替え
世帯数について (回答数:14)	子供の独立、世帯数の減少
生活の変化について (回答数:12)	退職による車利用の減少、引っ越しにより灯油ボイラーからオールガス住宅に変化、所得の減少
価格高騰について (回答数:16)	ガソリン・電気・灯油代の価格高騰のため
節電について (回答数:11)	コンセントを抜く、厚着、早寝早起き、消し忘れ防止
車について (回答数:7)	ハイブリッド車・省エネカーに乗り換え、車の燃費向上、自転車で行動
節約について (回答数:6)	節約意識、余分なものは買わない、光熱費の節約

1-5 再生可能エネルギー・脱炭素への取り組みに向けて

問 19. 今後あなたは釧路町の中でどの程度再生可能エネルギー・脱炭素に取り組んでいきたいですか？（単回答）

【結果】

「積極的に連携し取り組みたい」、「要望があれば連携していきたい」が合わせて、約 8 割と多くを占める結果となった。



【その他回答】

よくわからない（3）

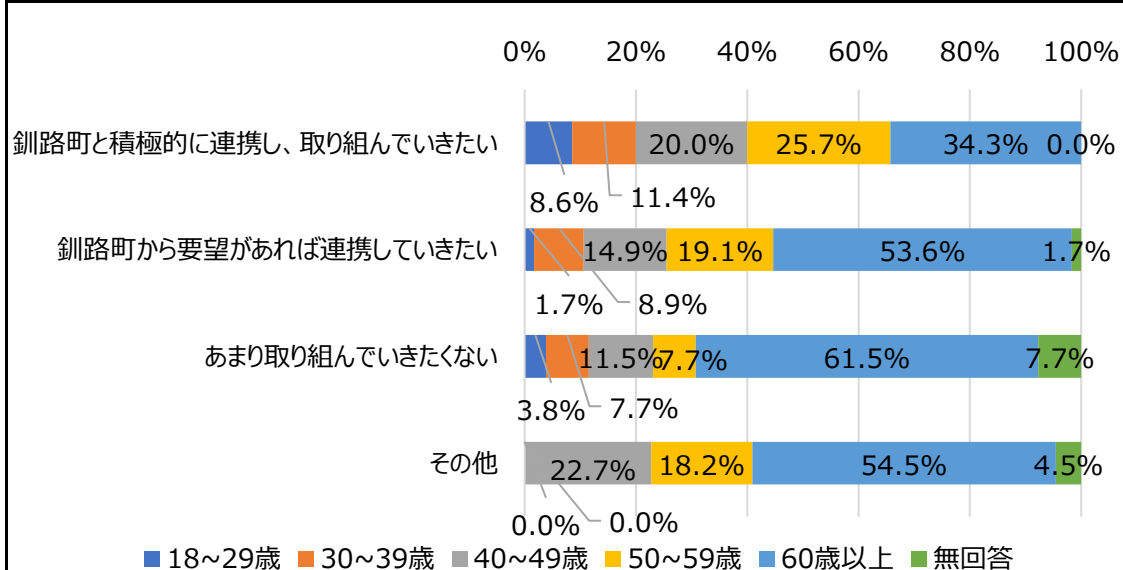
考えていない（2）

できることから取り組みたい（2）

行政との連携より個々の自覚が大切、再エネより原発稼働の安定供給、内容による、お金のかかることはできない、現時点では何とも言えない、自分にできるか不安、リサイクルは必要だが再エネに不信感

【特徴】

回答者の属性、「世帯主の年齢」に特徴がみられた。若い世代ほど「釧路町と積極的に連携し、取り組んでいきたい」の割合が高く、前向きな意見が多い。



問 20. 再生可能エネルギー・脱炭素の取り組みに向けて釧路町からどのようなサポートがあれば好ましいですか？（自由記述）

分類	回答内容
補助制度について （回答数:51）	助成金・補助金・資金サポート、政策、太陽光パネル向きの補助金、補助率の向上（100%、50%以上）、年金生活に不安、年金生活では個人への負担は大きくないほうが良い、省エネ家電の買い替えへの補助、売電価格を上げる、安い電気代への補助制度、ランニングコストまでみてほしい、電気自動車の補助、燃料価格高騰への補助
周知活動について （回答数:21）	必要な取り組みを具体的に話してほしい、広報・ポスターによる呼びかけ、情報提供、学習会、講演会の開催、太陽光パネル設置のアドバイス（設置から廃棄に至るまで）
太陽光への提案について （回答数:4）	セットとリースをできる企業と町民のマッチング、釧路町の気候をいかした太陽光・太陽熱利用、新築住宅の太陽光パネル設置義務化
発電に関する提案について （回答数:5）	洋上風力で釧路町に安い電気の購入、自然（風力、太陽光、波の力）等の利用に力を入れる、地熱・温水を地域内に供給（暖房、風呂）、世界一の低い二酸化炭素排出の火力発電を推すべき、小型風力発電
その他提案について （回答数:11）	ゴミの削減、デマンドバスの細かいサポート、騒音、多種多様の連携（小企業と町内会等）、商店街の電気の節電、蓄電システムの推進、取り組みに対するリターン（ポイント等）、節電チェッカーの設置
その他 （回答数:38）	思いつかない、わからない、省エネに協力する、家族で話し合い取り組む、電気の安定供給を望む、釧路湿原の貯水機能が素晴らしいので守るべき、目先の対応のみでは不親切、道・国との連携、安心・安全を考えたまちづくり

資料 2 事業者アンケート

脱炭素・再生可能エネルギー導入に関する事業者アンケート調査結果

【対象】釧路町内に事務所・店舗を持つ事業者

【回答】23 /50 社 （回答率 46%）

2-1 回答者の属性

事業内容

回答	回答（件）	割合(%)
産業部門（製造業）	4	17.4%
産業部門（農林水産業）	3	13.0%
産業部門（鉱業）	1	4.3%
産業部門（建設業）	10	43.5%
業務その他部門（事務所・ビル）	0	0.0%
業務その他部門（商業・サービス施設）	4	17.4%
運輸部門（自動車）	1	4.3%
運輸部門（鉄道）	0	0.0%
合計	23	100.0%

従業員数

回答	回答（件）	割合(%)
5 人以下	2	8.7%
6～20 人以下	5	21.7%
21～50 人以下	10	43.5%
51～100 人以下	4	17.4%
101～300 人以下	0	0.0%
301 人以上	2	8.7%
合計	23	100.0%

2-2 事業者アンケート 要点

再生可能エネルギー

導入について	「導入について全く検討していない」事業者が約 6 割と多くを占める結果となった。
課題	予算が確保できないことが課題として挙げられた。また、「再生可能エネルギーの導入の優先度が低い」ことも原因として挙げられた。導入に向けた補助金の強化や、再生可能エネルギーを利用することで事業者が利益を得ることができる施策を行うことで、優先度を高めていくことが必要。

脱炭素について

意識をしている事業者は約 3 割にとどまった。脱炭素に向けて行われている取り組みとしては、「ゴミの削減・リサイクル」が最も多く挙げられている。また、「節電機器・省エネ効果のある機器の導入」の実施も多く行われており、今後の取り組みでも同じ傾向がみられた。今後も「節電機器や省エネ効果のある機器の導入」を進め、産業の効率化を目指すとともに脱炭素に取り組む施策が有効と考えられる。

再生可能エネルギー・脱炭素への取り組みにむけて

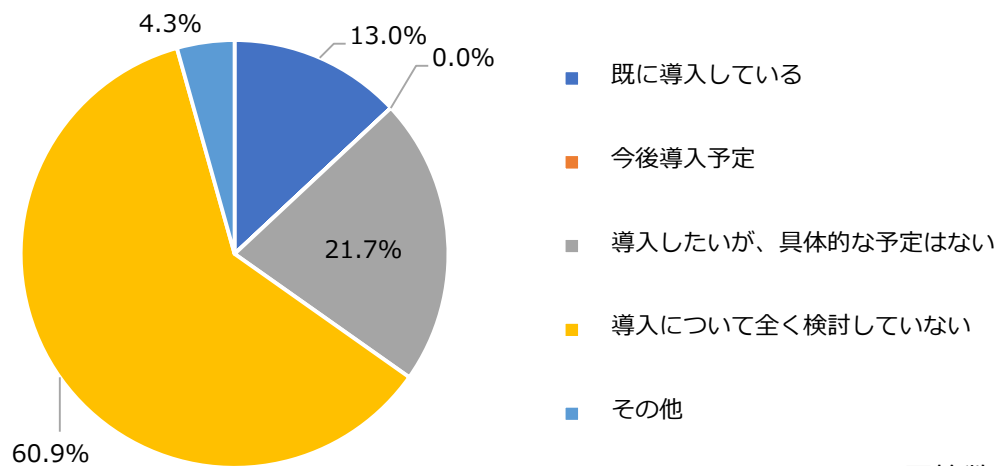
「釧路町から要望があれば取り組みたい」という回答が約 8 割を占め、積極的な事業者が多いことがわかる。

2-3 再生可能エネルギーについて

問 1. 貴社では再生可能エネルギー（太陽光、風力等を用いた発電施設の設置及び、その電気の利用）を導入していますか？（単回答）

【結果】

「導入について全く検討していない」が約 6 割を占め、一番多くの割合を占める。



回答数=23

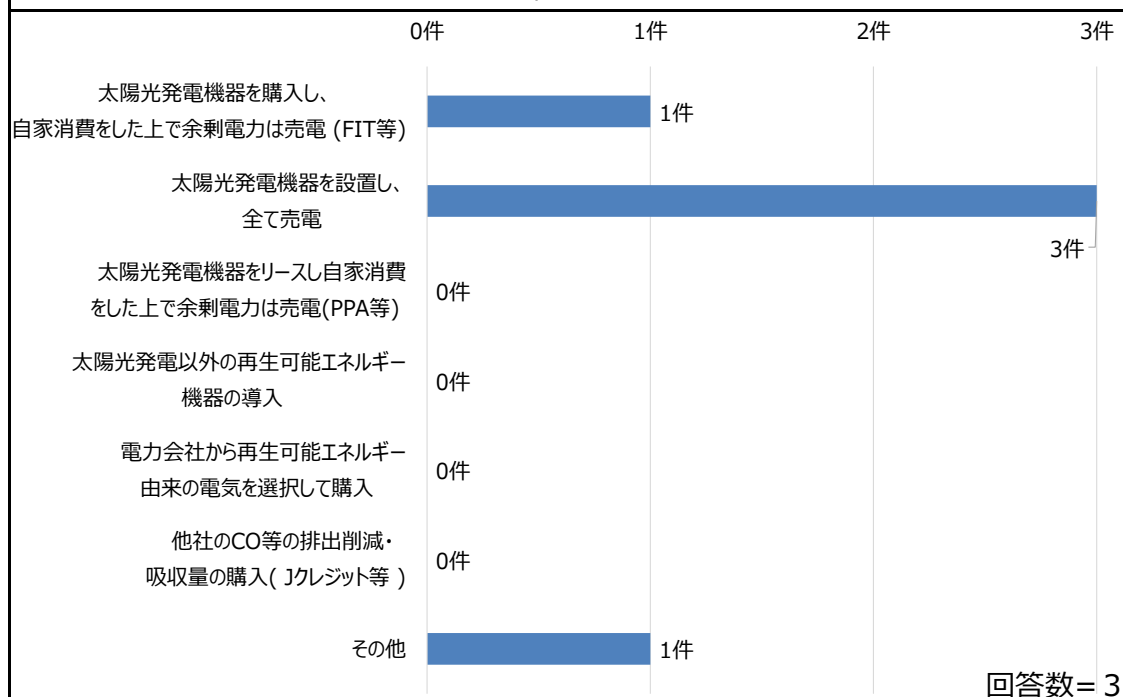
【その他の回答内容】

北海道電力との契約

問 2. 問 1 で「既に導入している」「今後導入予定」とお答えした方にお伺いします。導入はどのような方法でしょうか？（複数選択）

【結果】

太陽光発電を利用して、売電している事業者が多い。



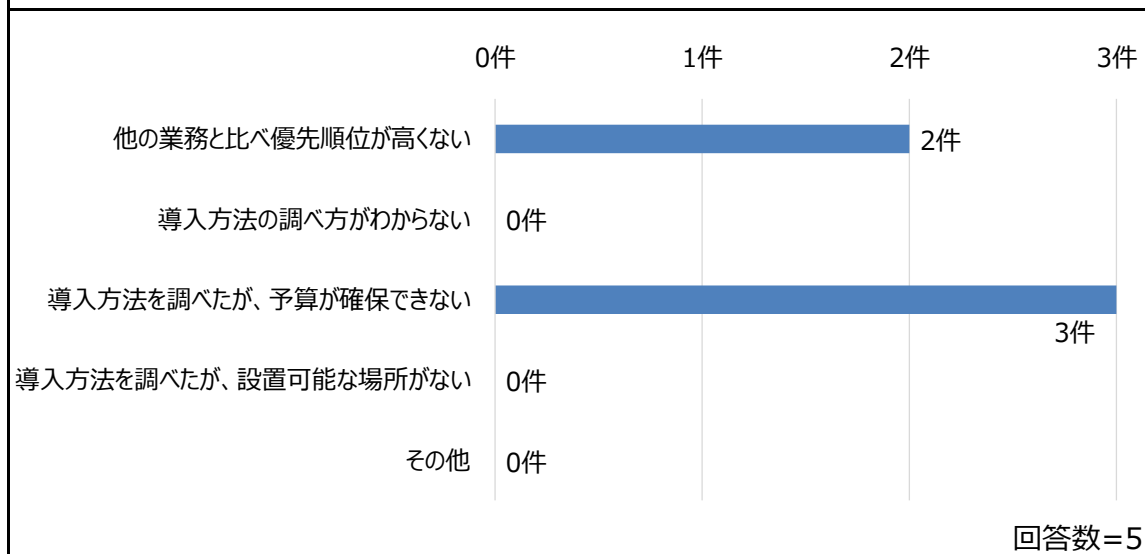
【その他の回答内容】

本社にて判断するため

問 3. 問 1 で「導入したいが、具体的な予定はない」とお答えした方にお伺いします。未検討となっている理由はなんですか？（複数選択）

【結果】

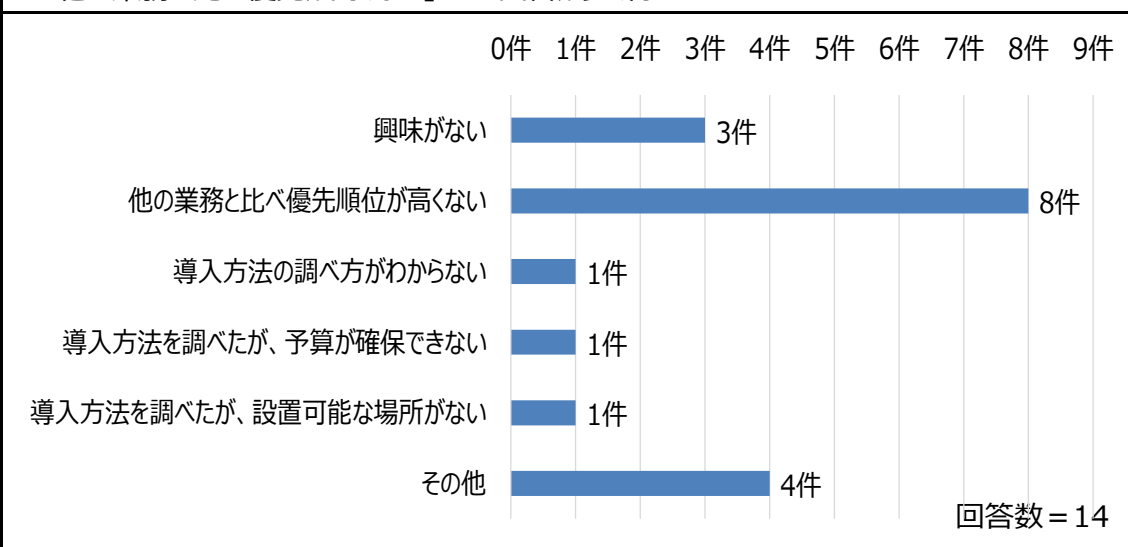
「予算が確保できない」、「優先順位が高くない」という回答が得られた。



問 4. 問 1 で「導入について全く検討していない」とお答えした方にお伺いします。その理由は何ですか？（複数回答）

【結果】

「他の業務に比べ優先度が低い」という回答が多く得られた。



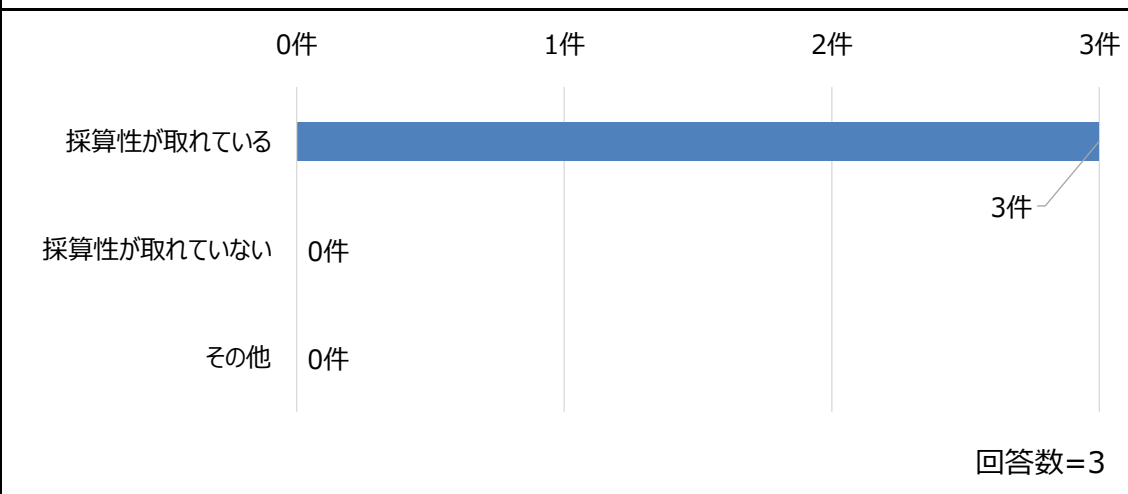
【その他の回答内容】

会社での話に上がっていない、勉強不足、本社にて判断するため、業務上難しい

問 5. 問 1 で「既に導入している」とお答えした方にお伺いします。経済的な満足度はいかがですか？(複数回答)

【結果】

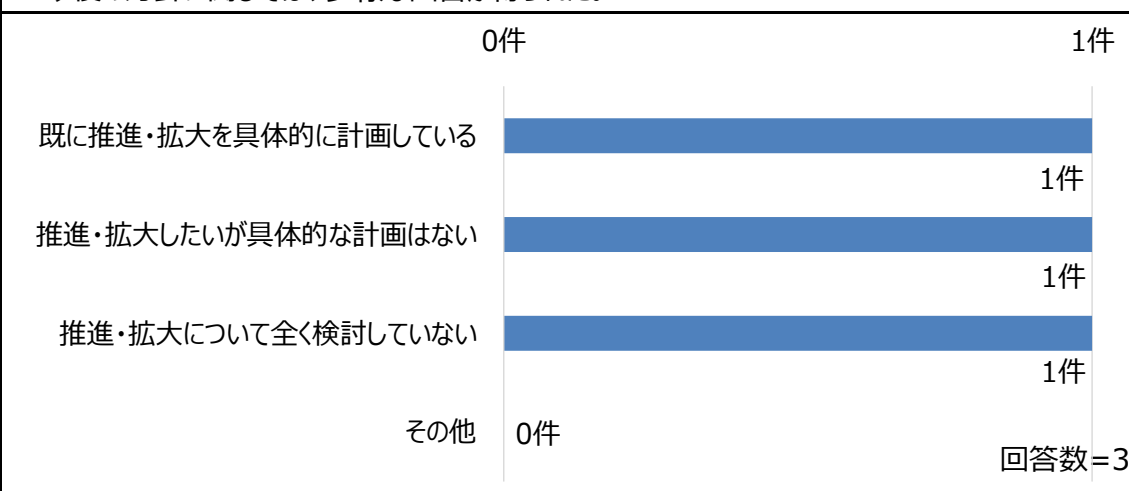
導入しているすべての事業者で採算が取れているという回答が得られた。



問 6. 問 5 で「採算性が取れている」とお答えした方にお伺いします。今後、推進・拡大していく予定はございますか？（単数回答）

【結果】

今後の方針に関しては、多様な回答が得られた。



問 7. 問 5 で「採算性が取れていない」とお答えした方にお伺いします。その理由は何でしょうか？（複数回答）

【結果】

回答無し

問 8. 問 6 で「既に推進・拡大を具体的に計画している」「推進・拡大したいが具体的な計画はない」とお答えした方にお伺いします。推進・拡大はどのような方法が考えられますか？（自由記述）

【回答内容】

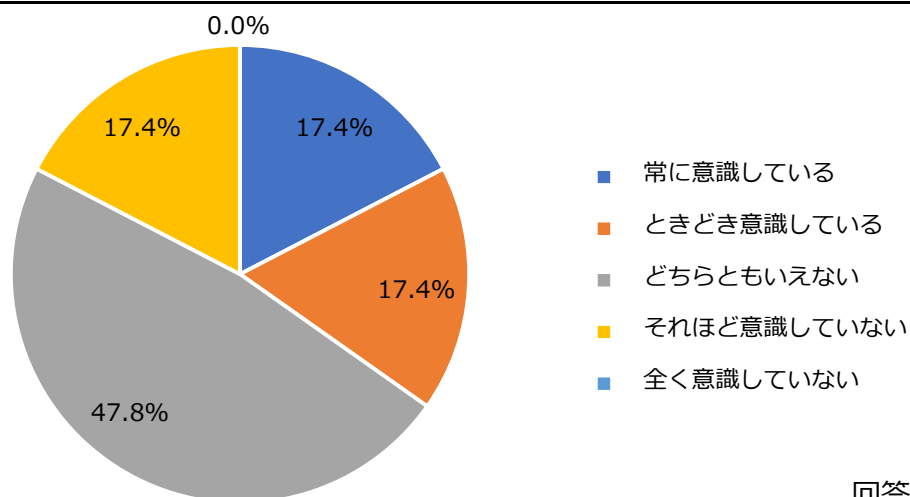
水力発電を計画中

2-4 脱炭素について

問 9. 貴社では脱炭素 について、日常の業務や購入の際にどの程度意識的に選択していますか？（単数回答）

【結果】

「どちらともいえない」という回答が一番多く、「常に意識している」、「ときどき意識している」が、あわせて 36.4%であった。

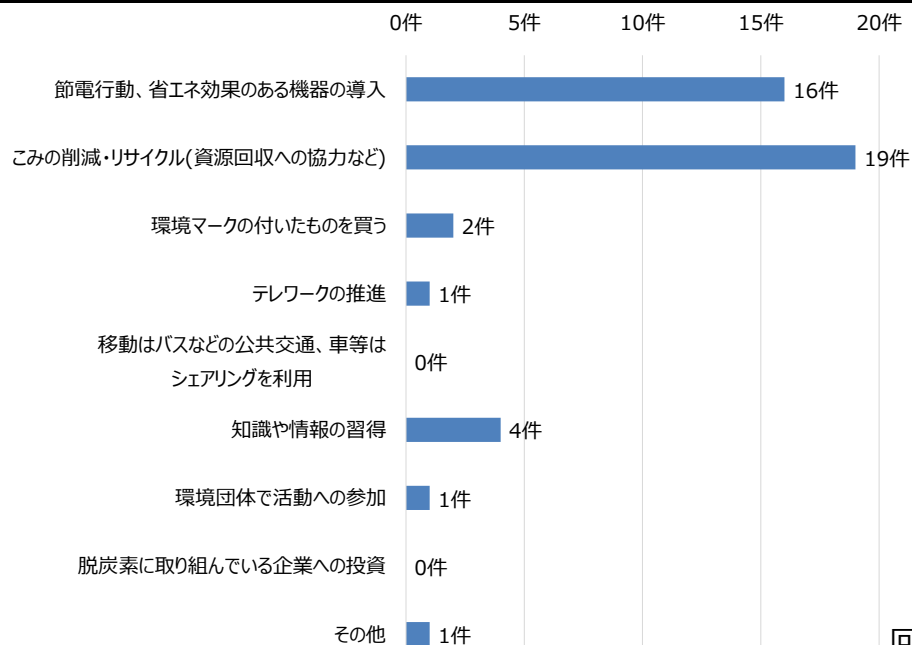


回答数=23

問 10. 脱炭素に向けて既に実施している取り組みはありますか？（複数回答）

【結果】

「ごみの削減・リサイクル」、「節電行動、省エネ効果のある機器の導入」が多い。



回答数=23

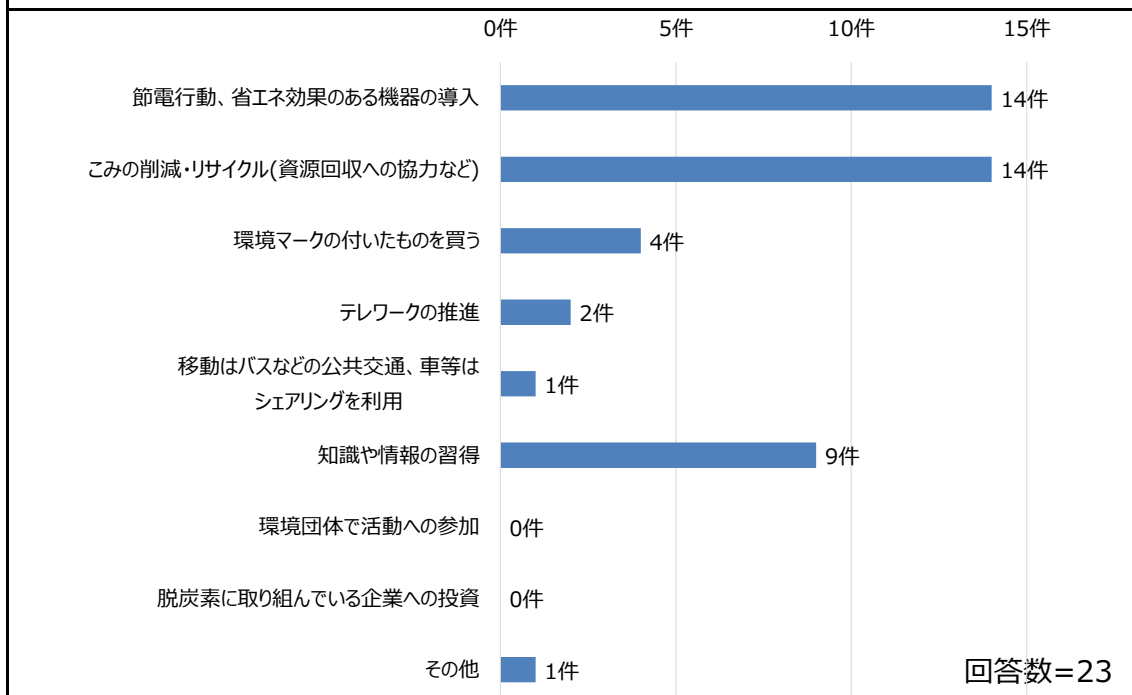
【その他の回答内容】

木造化、木質化、森林の取得

問 11. 脱炭素に向けて今後実施していきたい取り組みはありますか？（複数選択）

【結果】

問 10 と同じく、「ごみの削減・リサイクル」、「節電行動、省エネ効果のある機器の導入」が多い。



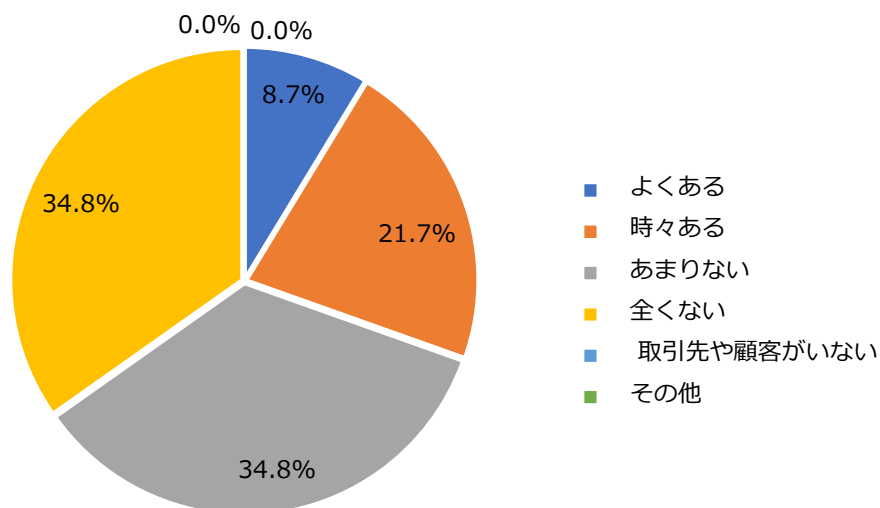
【その他の回答内容】

木造化、木質化、森林の取得

問 12. 主要取引先や顧客等から貴社への脱炭素取り組みの要請はありますか？
(単数選択)

【結果】

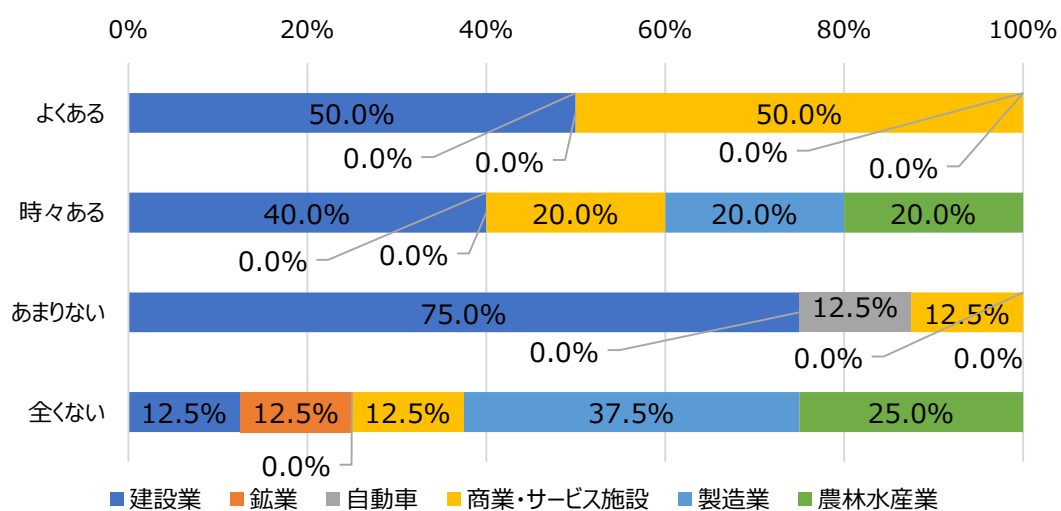
「あまりない」、「全くない」合わせて、約 7 割を占める。



回答数=23

【特徴】

回答者の属性、「事業内容」に特徴がみられた。「商業」、「サービス施設」では、「よくある」、「時々ある」を合わせて依頼があることが多い傾向が見られる。



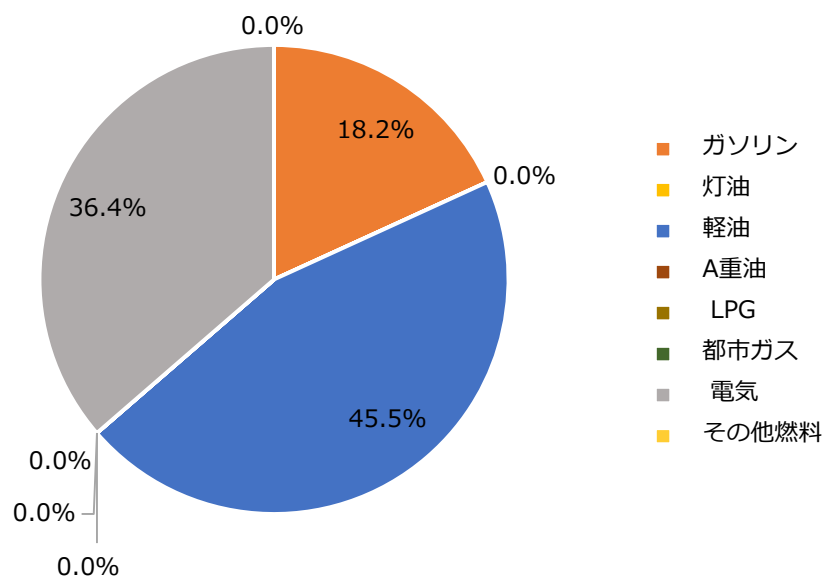
問 13. 2021 年の 1 年間のエネルギー消費量をお答えください。

項目 部門	(ガ ソ リン) ℓ	(灯 油) ℓ	(軽 油) ℓ	(A 重 油) ℓ	(L P G) m³	(都 市 ガ ス) m³	(電 気 W h) kWh	燃 料 の 他
農林水産業A	2,343	4,063	4,715	43,230				
建設業A	5,719	3,011	531,000			552	2,068	
建設業B		9,500			13		34,000	
建設業C	5,022	7,080	132,200	31,600			239,496	
建設業D	2,810	8,942	10,425		9		5,098	
製造業A							680,000	化石燃料 120kL
製造業B	4,166	3	4,386			13	26,984	
製造業C	2,576	715		70,460			155,351	
自動車A	93,700	7,440			63,480			
商業A						369	8,649,024	

問 14. 問 13 で「把握していない」とお答えした方にお伺いします。エネルギー消費量が最も多いエネルギーの種類はどれでしょうか？（単数回答）

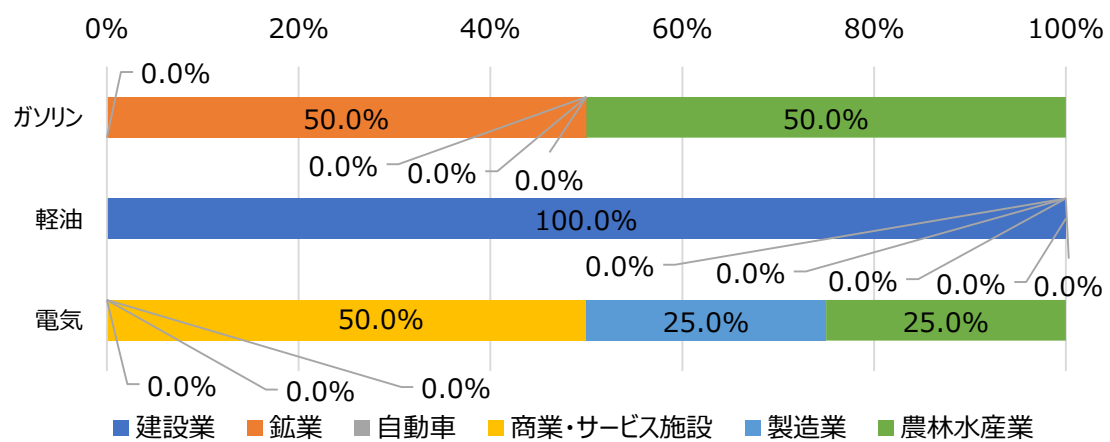
【結果】

「軽油」が最も多く、ついで「電気」が多い。



【特徴】

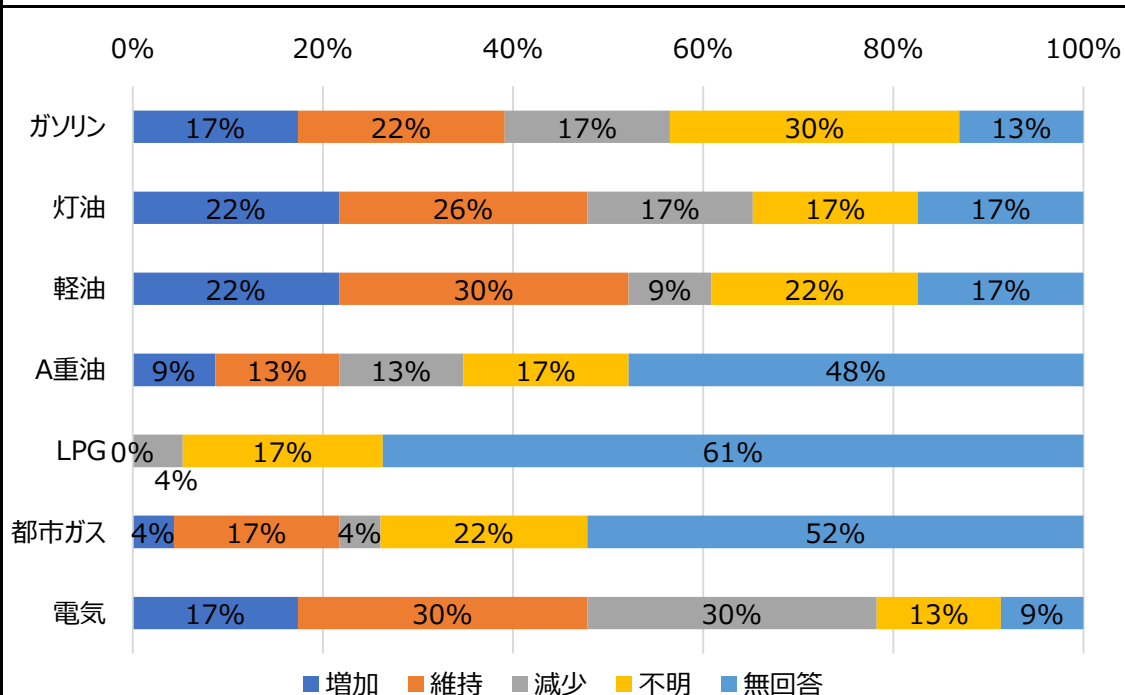
回答者の属性、「事業内容」に特徴がみられた。「軽油」は「建設業」での使用が 100%を占める。また、「電気」は、「商業・サービス施設」での利用が多くを占める。



問 15. 2013 年のエネルギー消費量と比較し、2021 年の 1 年間のエネルギー消費量の増減をお答えください。（単数回答）

【結果】

「無回答」が多く得られたが、「維持」、「減少」が全体的に多い。



回答数=23

問 16. エネルギー消費量の増減の具体的な理由は何でしょうか？（自由記述）

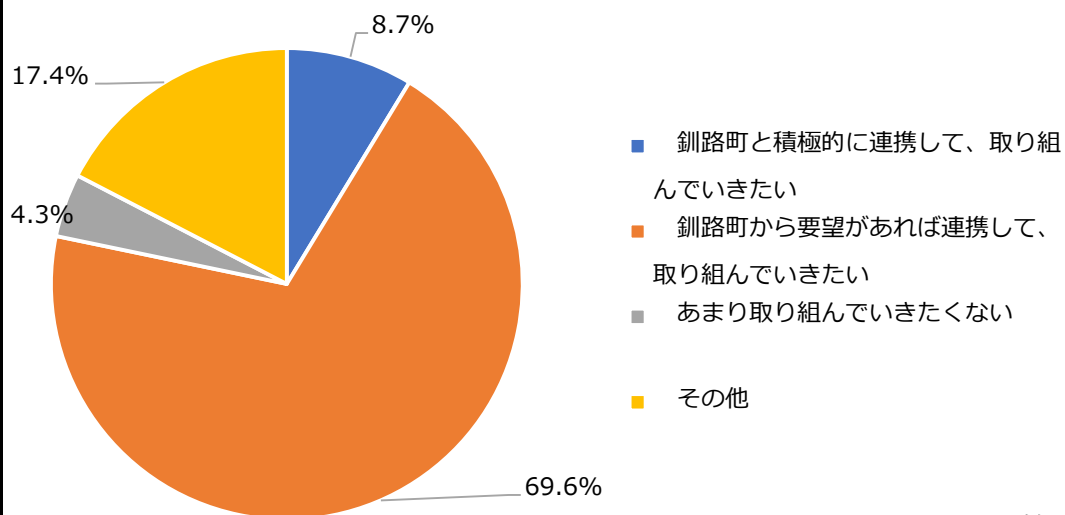
分類	回答内容
業務量について（回答数:4）	仕事量の減少、業務の増加
機器について（回答数:4）	電気の LED 化、ハイブリッド車の導入、ガス空調への変更
燃料について（回答数:3）	燃料費の上昇、使用機器の性能向上
その他（回答数:1）	労働者不足、需要減による稼働率の低下

2-5 再生可能エネルギー・脱炭素への取り組みに向けて

問 17. 今後貴社は釧路町の中でどの程度再生可能エネルギー・脱炭素に取り組んでいきたいですか？（単数回答）

【結果】

「要望があれば取り組みたい」という回答が多く得られた。



回答数=23

【その他の回答内容】

特に考えていない、本社との連絡が必要

問 18. 再生可能エネルギー・脱炭素の取り組みに向けて釧路町からどのようなサポートがあれば好ましいですか？ご自由にお書きください。

知識と情報の提供

資料 3 太陽光発電システム補助事業の利用者アンケート

住宅用太陽光発電システム導入補助事業のアンケート調査結果

【対象】これまで釧路町で実施されている、住宅向けの太陽光発電システムへの補助事業の採択を受け、交付を受けた方

【回答】16 /52（件）（回答率 31%）

3-1 太陽光発電システム補助事業の利用者アンケート 要点

太陽光発電

メリット	7 割以上の方が、「メリットがあった」と回答した。また、「初期投資に見合っている」という回答も過半数を占めた。メリットの具体的な内容としては、災害時の利用や売電収入等が挙げられている。
デメリット	「全くない」という意見が 7 割以上を占めたが、「デメリットがあった」という回答もわずかに得られた。デメリットとして、想定していた発電量が得られなかったこと等が挙げられている。

蓄電池について

現在蓄電池を併設している方は、少ない状況にあるが、併設している人の中で「必要だ」という回答が 7 割以上得られた。背景として、「非常時への備え」が多く挙げられた。

制度について

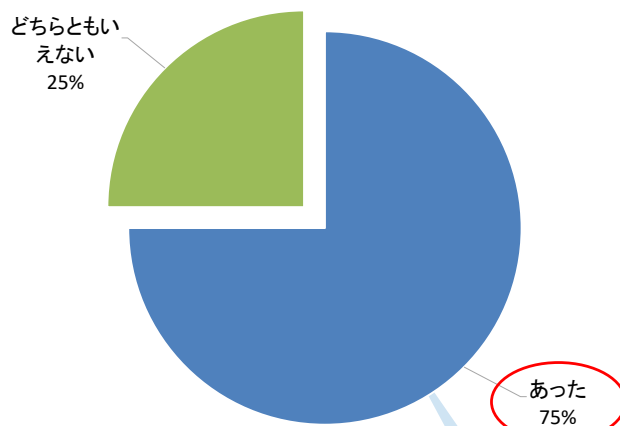
蓄電池に対する補助や補助の上限を引き上げることなど、現在の補助にさらに上乗せしたものを求める声がみられた。

3-2 太陽光発電について

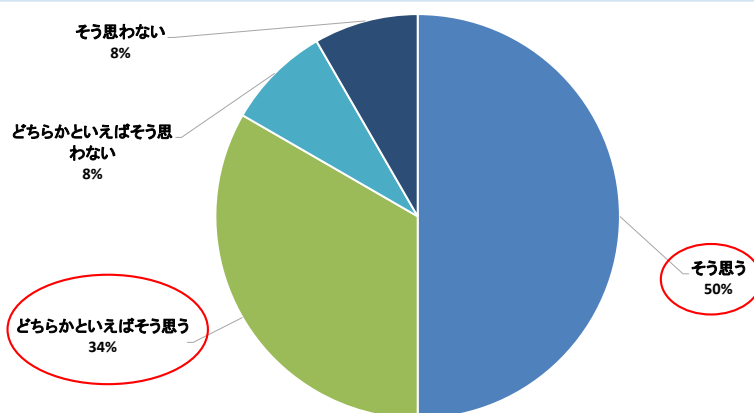
太陽光発電の導入メリットについて

【結果】

導入メリットが「あった」と回答した人のうち、84% が初期投資に対する採算性が確保できていると感じている。



1-1. 太陽光発電の導入メリットの有無



1-2. 初期投資に対してメリットが見合っているか

【太陽光発電の導入メリットの具体的な内容】

電気代が安くなった、停電時・非常時に役立った（ブラックアウト時等）、夏は電気代タダで、プラスになるし、持ち越せば冬も安い、売電収入

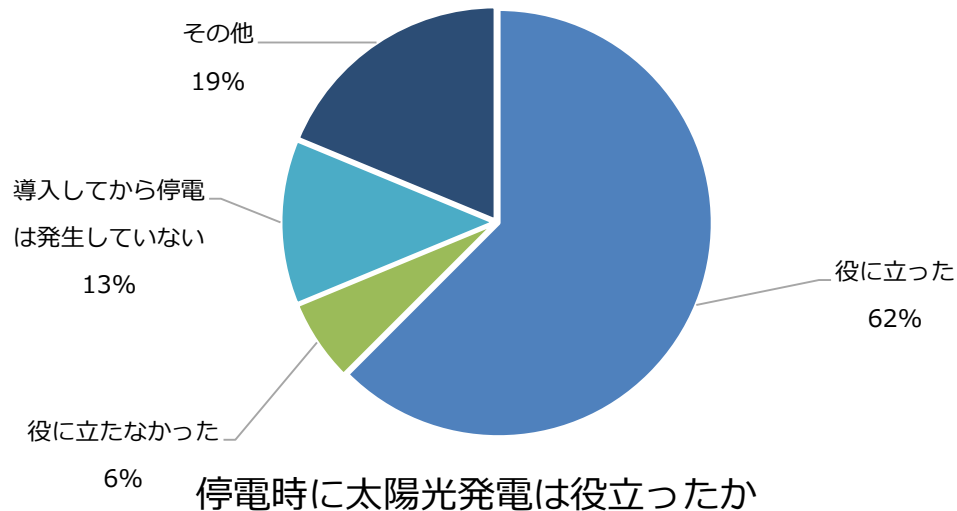
太陽光発電システムの導入の理由

もしものときのため、災害があったときのための備えで、太陽光発電は投資であると思っている

停電時の活用

【結果】

62%が停電時に利用し、災害対策につながっていると回答。



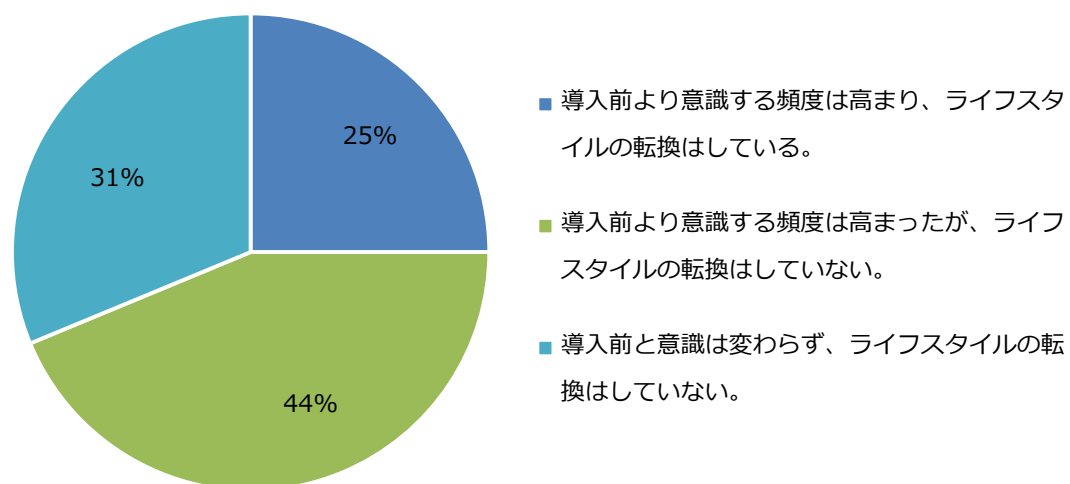
【その他の回答内容】

蓄電池を設置していないので、使用できないと思っていた、夜に停電したので発電していなかった、今は、蓄電池がなく売電しているのみ、留守中で利用できなかった

エコ意識への影響について

【結果】

エコを意識する頻度が高まっているという回答が7割近く得られたが、ライフスタイルの転換をしている方は3割であった。



太陽光発電導入による、エコ意識への影響

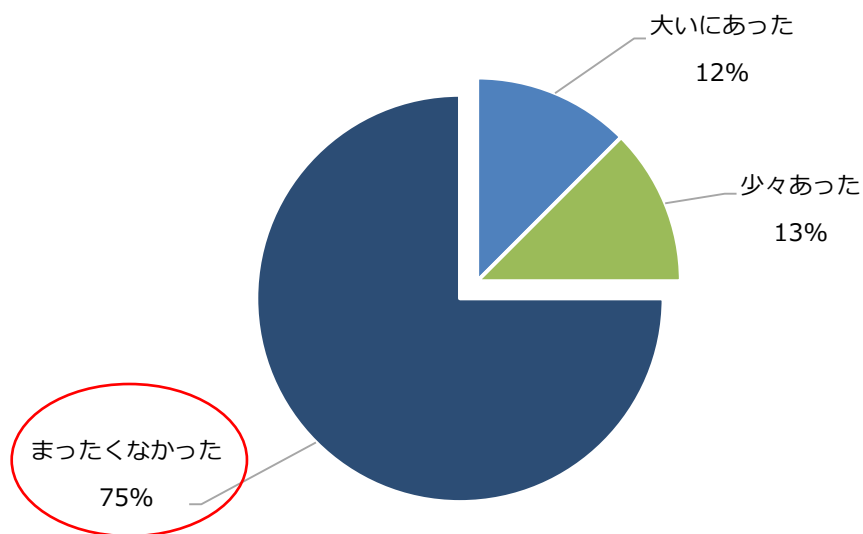
【ライフスタイルの転換の回答内容】

節電、3Rによるゴミの削減、公共交通機関利用、環境保全活動への参加

太陽光発電の導入デメリットについて

【結果】

太陽光発電を導入しての、トラブルや不満などのデメリットはないという回答が 75%



太陽光発電導入に関するデメリットの有無

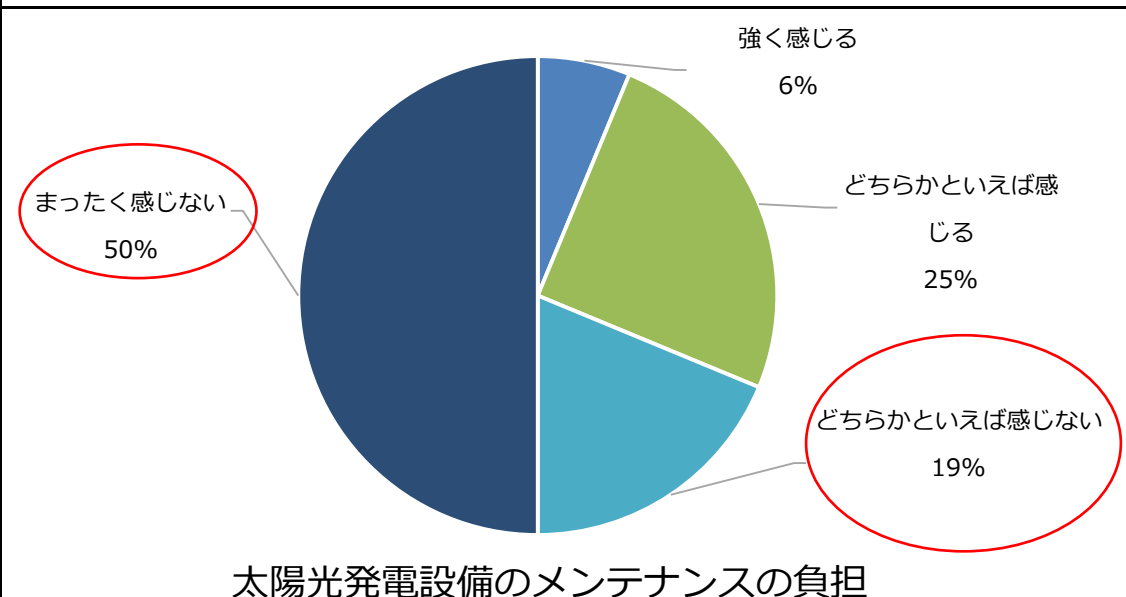
【太陽光発電の導入メリットの具体的な内容】

分類	回答内容
設置前後のギャップ (回答数:2)	予想発電量との差が大きかった、雪などの天候により全くといっていいほど発電、売電できない期間がある、停電時に使用できるコンセントが家全体の 1/4 (あらかじめコンセントの配置を打ち合わせるべきだった)
費用 (回答数:2)	予想発電量と異なりランニングコストと見合わない、長期ローンを組んでまで取り付けるメリットが得られなかった
その他 (回答数:2)	現状では、メンテナンス費用が無いが将来的な出費が心配、釧路は霧や晴天が続かない時期があるので年間を通して安定した発電を得られない

メンテナンスの負担

【結果】

約 7 割の人が手間やコストを感じていないという回答が得られた。



【メンテナンス負担の具体的な内容】

パネルの故障、損傷したときの修繕、冬の太陽光パネルの除雪

将来の不安

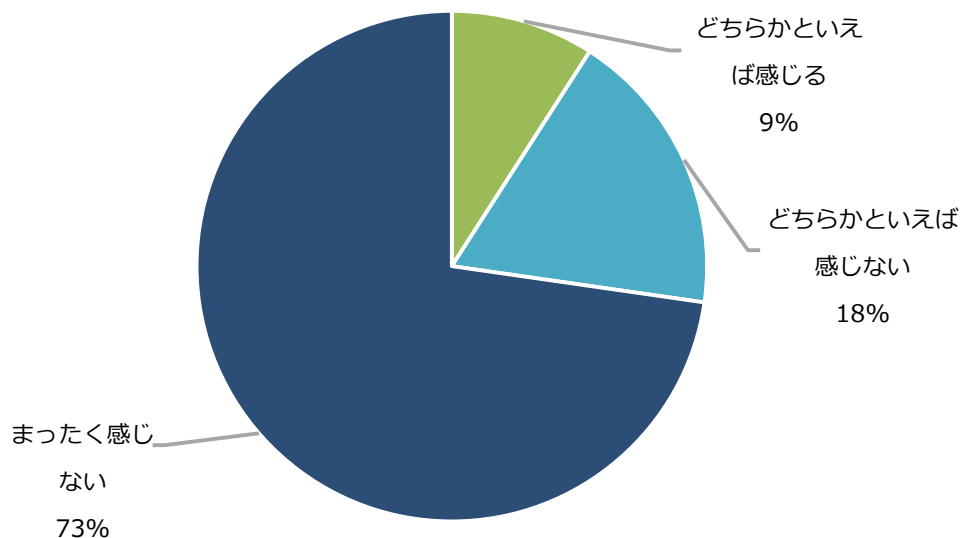
固定価格での売電契約が終わったとき（卒 FIT）に、同じ価格で売電契約できる保証がない売電ができなくなれば蓄電池の導入も検討しなければならない（蓄電池導入にも費用がかかる）メンテナンスをしたことはない（メンテナンスや設備の交換時期に費用などの面で不安がある）

3-3 蓄電池について

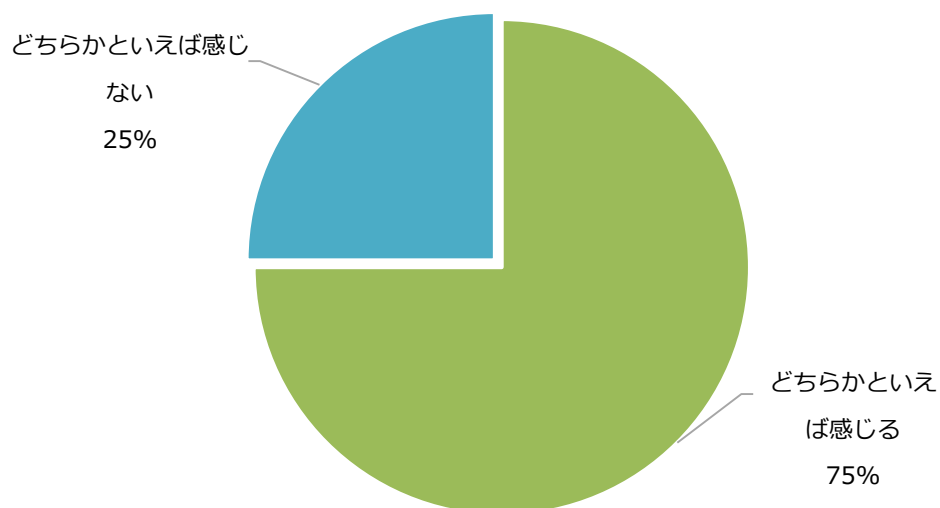
メンテナンス負担についての意識（蓄電池設置者別）

【結果】

蓄電池設置者の方がメンテナンス負担を感じている割合が高い。また、パネルの設置のみであれば手放してメリットを受けることが多い。



太陽光発電設備のメンテナンスの負担
(蓄電池なし)

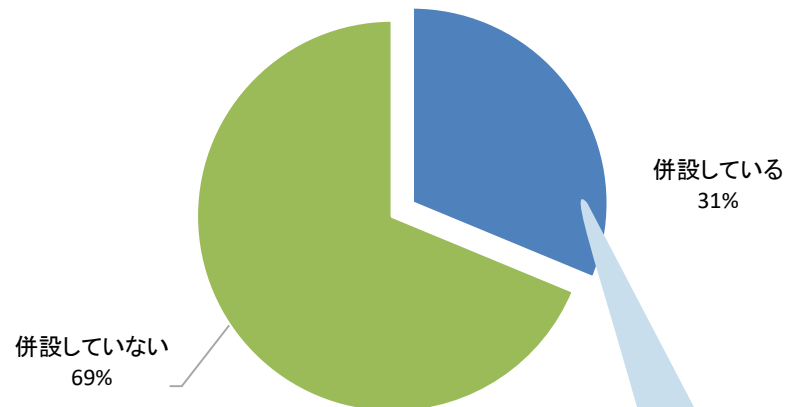


太陽光発電設備のメンテナンスの負担
(蓄電池あり)

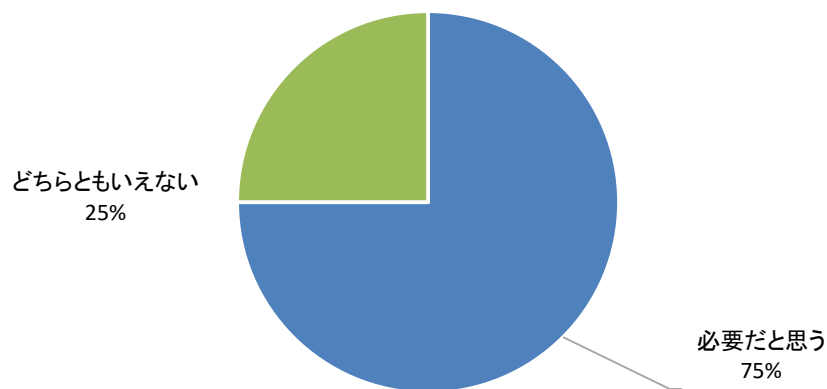
蓄電池の設置について

【結果】

蓄電池の併設状況は少ないが、蓄電池を設置した人が必要性を75%が感じている。主に、非常時の備えや、非常時により安全に対応できるようにしたいという考えから設置されている。



蓄電池併設の状況



蓄電池の必要性
(併設している人のみ回答)

蓄電池が必要だと思う理由

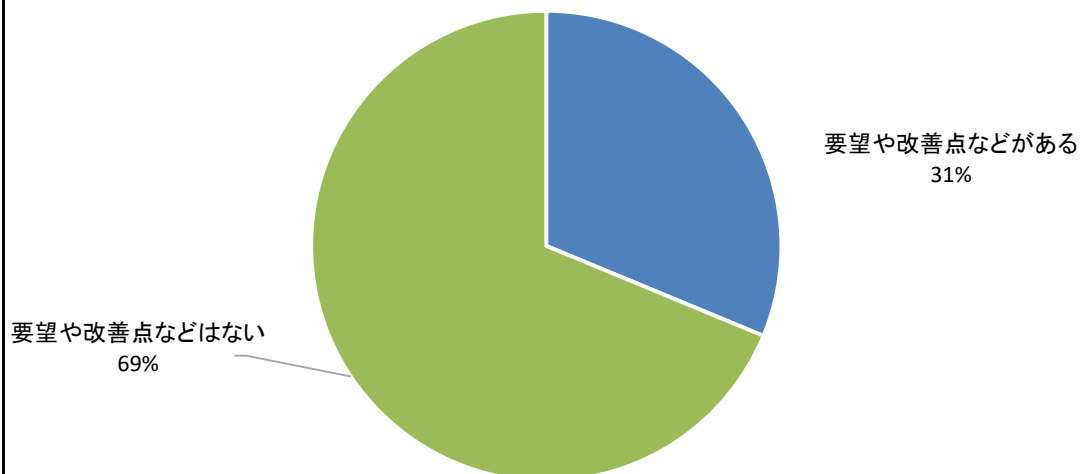
分類	回答内容
非常時の利用	停電時に昼夜問わず、電気を供給することができた
非常時への備え	非常時、災害時に備えたいから、同居家族に小さい子供や障害を持っている子がおり、仕事で家を空けるときの季節を問わず、少しでも何かあったときのために準備したいから

3-4 制度について

制度に対する要望・改善点

【結果】

釧路町による住宅用太陽光発電システム導入に対する補助金制度（発電システムの最大出力 kW 数×5 万円 ※最大 20 万円）について、約 3 割の人に「要望や改善点などがある」という回答が得られ、補助金を増やしてほしいという声を得られた。



太陽光発電導入の補助制度に対する要望・改善点の有無

【制度に対する要望】

蓄電池導入に対する補助制度が欲しい（卒 FIT を考えると自家消費が一番経済的だが、蓄電池の初期投資の負担が大きい）、補助金の上限を 30 万円まであげてほしい、メンテナンスの補助費用が欲しい

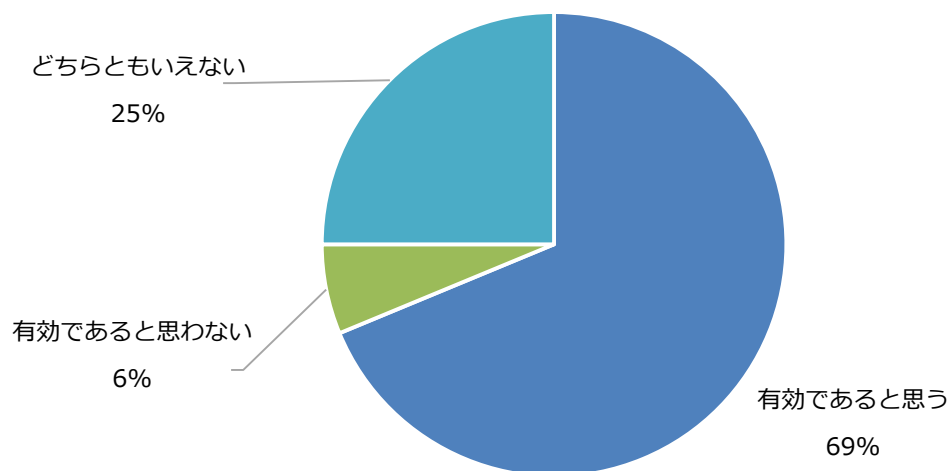
【制度に対する改善点】

補助金が出るというお得感があるが、実際には大きな経済的負担、蓄電池も補助金があれば普及しやすくなると思う、太陽光パネルは 4kw 以上の載せる家庭が多いと思う

現行制度は CO2 排出量削減に有効か

【結果】

約 7 割が補助金制度に対して有効であると回答。

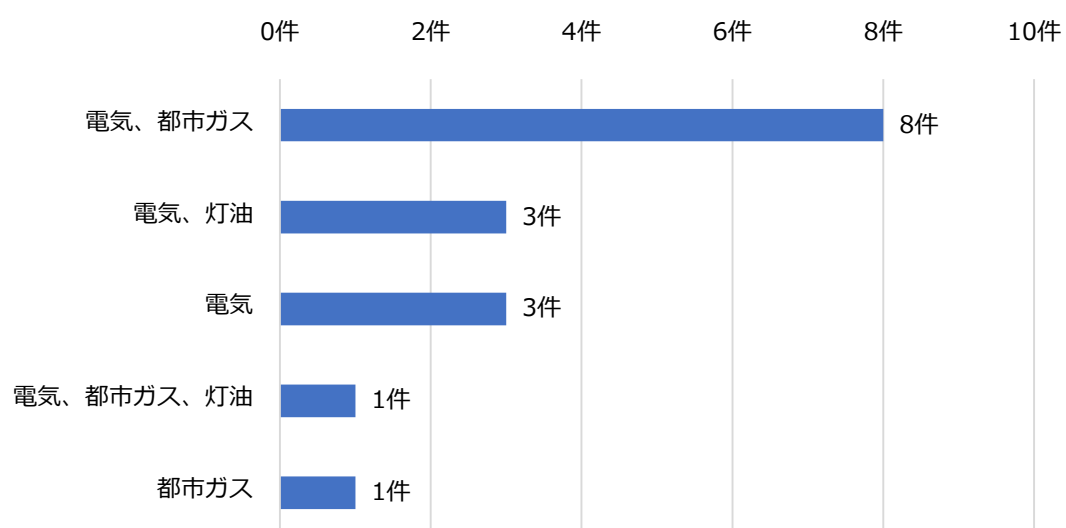


現行の太陽光発電導入の補助金制度は
CO2 排出量削減に有効か

補助金交付者のエネルギー使用状況

【結果】

「電気」、「都市ガス」を合わせて利用している人が 1 番多い。



エネルギー使用状況

資料 4 再生可能エネルギーのポテンシャル量の算出方法

4-1 再生可能エネルギーの概要

種類	概要詳細	ポテンシャル
太陽光発電	【概要】 太陽の光エネルギーを太陽電池（半導体素子）により直接電気に変換する発電方法 【特徴・導入課題】 ・住宅用、産業用ともに実用化されているため、導入が比較的容易。 ・普及が進んだことにより、導入費用が低くなってきている。 ・売電事業の際は、買取制度の動向に注意が必要。 ・積雪地域においては、積雪加重による破損や雪処理の手間が懸念される。	302MW
風力発電	【概要】 風の運動エネルギーを風車により回転エネルギーに変え、その回転を発電機に伝送し、電気エネルギーに変換する発電方法 【特徴・導入課題】 ・実用化されているが、風況の良いことが条件であり、事業化が可能な地域が限定的。 ・安定性に欠けるため、経済面での課題がある。 ・景観や騒音など周辺住民への配慮が必要。	1275MW
水力発電	【概要】 河川などの高低差を活用して、水車を回して発電する方法 【特徴・導入課題】 ・安定した流量や、流速（落差）が必要で、事前調査に時間を要する。 ・自家利用発電として利用する場合、需用施設が近接している必要がある。 ・水利権者や関係者の調整が必要。	0 MW

種類	概要詳細	ポテンシャル
バイオマス発電	【概要】 木質系バイオマスやもみ殻、稲わら等の農作物残渣などの生物資源を直接燃焼やガス化によって電気に変換する発電方法 【特徴・導入課題】 ・発電事業を行う場合は、安定的な供給体制が不可欠。 ・資源の利用に当たっては、森林の所有や権利関係の整理が必要。 ・資源が広域に分散しており、収集・運搬費用がかかる。	推計 対象外
太陽熱	【概要】 太陽の熱エネルギーを太陽集熱器に集め、熱媒体を暖め、給湯や冷暖房などに活用するシステム 【特徴・導入課題】 ・太陽光発電よりもエネルギー効率が高く、住宅用、産業用ともに実用化されている。 ・利用が給湯や暖房等に限られるため、一般的な普及が進んでいない。	0.98 億 MJ/年
地中熱	【概要】 浅い地盤の地中温度と外気温度の温度差を利用し、冷暖房などに活用するシステム 【特徴・導入課題】 ・場所・天候に左右されないため、安定的に利用が可能。 ・家庭用、産業用ともに実用化されており、普及可能性が高い。 ・井戸掘削が必要となるため、導入費用が高く、短期間での投資回収には不向き。	13.0 億 MJ/年
雪冷熱	【概要】 冬の間に降った雪や、冷たい外気を使って凍らせた氷を保管し、冷熱が必要となる時季に利用するシステム 【特徴・導入課題】 ・冷房への活用のほか、農産加工品等への活用事例がある。 ・貯冷庫の整備の初期費用が高く事業性に課題がある。 ・利用の際、雪の運搬・収集費用がかかる。	推計 対象外

4-2 釧路町の再生可能エネルギーのポテンシャル

釧路町の再生可能エネルギーのポテンシャルは、環境省の再生可能エネルギー情報提供システム（REPOS）で推計されている数値をもとに算出しています。

導入ポテンシャルの推計方法

種類	定義	推計方法
太陽光発電 （建物系）	官公庁、病院、学校、住宅等に導入可能な設備容量	環境省「再生可能エネルギー情報提供システム（REPOS）」の本町における導入ポテンシャルの値を採用
太陽光発電 （土地系）	最終処分場/一般廃棄物、耕地/田・畑、水上/ため池等に導入可能な設備容量	環境省「再生可能エネルギー情報提供システム（REPOS）」の本町における導入ポテンシャルの値を採用
風力発電 （陸上）	町内に導入可能な設備容量	環境省「再生可能エネルギー情報提供システム（REPOS）」の本町における導入ポテンシャルの値を採用
水力発電	町内に導入可能な設備容量	環境省「再生可能エネルギー情報提供システム（REPOS）」の本町における導入ポテンシャルの値（未導入）に、既存水力発電所の設備容量を加えた値を採用
バイオマス発電	町内で得ることができる資源量により、導入可能な設備容量	推計対象外
太陽熱	町内で得ることができる熱量	環境省「再生可能エネルギー情報提供システム（REPOS）」の本町における導入ポテンシャルの値を採用
地中熱	町内で得ることができる熱量	環境省「再生可能エネルギー情報提供システム（REPOS）」の本町における導入ポテンシャルの値を採用
雪冷熱	町内において除雪した雪等から得ることのできる冷熱量	推計対象外

4-3 各電源のポテンシャルの算出条件

太陽光発電

【概要】

- 太陽光発電のポテンシャルは「建物系」と「土地系」の2つに分けて推計
- 太陽光（建物系）（95MW）+太陽光（土地系）（207MW）
=302MW を太陽光の発電ポテンシャルとして採用した。

建物系

推計方法

カテゴリー	官公庁、病院、学校、戸建住宅等、集合住宅、工場・倉庫、その他建物、鉄道駅
使用情報	GIS情報

GIS情報より取得したポリゴン面積に設置可能面積算定係数を乗じて**設置可能面積**を算出

用途	設置可能面積算定係数
戸建住宅等	0.46~0.54 (都道府県ごと)
戸建住宅等以外	0.499

建物ポリゴン
A m²

設置可能面積 (m²)
= A × 設置可能面積算定係数

土地系

カテゴリー	最終処分場	耕地	荒廃農地	水上
	一般廃棄物	田	畑	ため池
使用情報	環境省 一般廃棄物処理実態調査結果	農林水産省 農地の区画情報 (筆ポリゴン)	再生利用可能 再生利用困難	ため池法に基づくため池DBを もとに、環境省においてGIS情報 を整備

各カテゴリーの算定元データと設置可能面積算定係数等から**設置可能面積**を算出

カテゴリー	設置可能面積算定元データ	設置可能面積算定係数 等
最終処分場／一般廃棄物	埋立面積 (m ²)	×1.00
耕地／田・畑	筆ポリゴン	各ポリゴンの周囲から5m内側に距離をとって再作成したポリゴンの面積を 設置可能面積とする
荒廃農地 (営農型)	都道府県 (北海道は振興局別) 荒 廃農地面積を市町村別耕地面積によ り按分した面積 (m ²)	(都道府県ごとに設定) ×0.84~0.34
荒廃農地 (地上設置型)		×1.00
ため池	満水面積 (m ²)	×0.40

GISを使用した耕地とため池は、推計除外条件に該当するものを除外

導入ポテンシャル (設備容量 : kW) = 設置可能面積 (m²) × 設置密度 (kW/m²)
(年間発電量 : kWh) = 設備容量 (kW) × 地域別発電量係数 (kWh/kW/年)

戸建住宅等 : 0.167kW/m²
戸建住宅等以外の建物 : 0.111kW/m²
地上・水上設置型 : 0.111kW/m²
営農型 : 0.040kW/m²

風力発電

【概要】

- 全国を500mメッシュ単位で区切り条件を満たさない場所を除いた面積を算出
- REPOS で示されている釧路町データのうち、陸上風力導入ポテンシャルの設備容量の 1,275MW を採用した。

陸上風力発電

推計方法

全国を500mメッシュ単位で区切り、高度90mにおける風速が5.5m/s未満のメッシュを除く

標高などの自然条件、国立・国定公園等の法制度、居住地からの距離などの土地利用状況から推計除外条件を設定

推計除外条件と重なるメッシュを除き、**設置可能面積**を算出
(解析は100mメッシュ単位で実施)

設置可能面積 = 残った100mメッシュ数 × 0.01km²

導入ポテンシャル (設備容量 : kW) = 設置可能面積 (km²) × 単位面積当たりの設備容量 (kW/km²)
(年間発電量 : kWh) = 設備容量 (kW) × 理論設備利用率 × 利用可能率 × 出力補正係数 × 年間時間 (h)

理論設備利用率は風速区分ごとに設定

令和3年度推計の主な変更点

項目	R3年度における設定	(参考) R1年度における設定
単機出力 (kW)	4,000	2,000
ハブ高 (m)	90	80
パワーケーブル	ストーム制御機能あり	ストーム制御機能なし
推計除外条件 : 保安林	推計除外条件に非該当 (導入ポテンシャル対象)	推計除外条件に該当 (導入ポテンシャル対象外)
推計除外条件 : その他の用地	推計除外条件に非該当 (導入ポテンシャル対象)	推計除外条件に該当 (導入ポテンシャル対象外)

陸上風力 : 10,000kW/km²

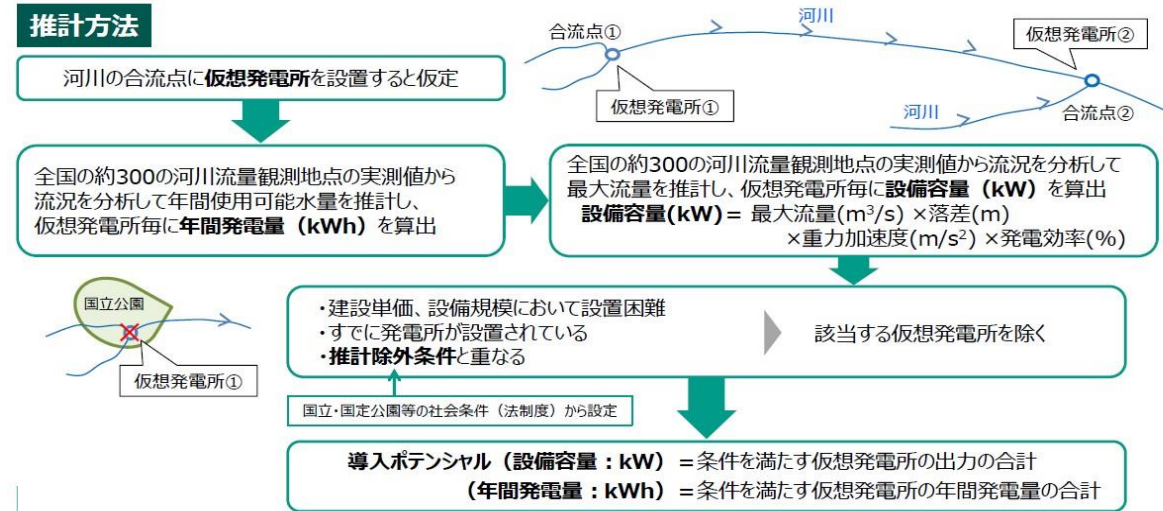
参考資料・出典：環境省「再生可能エネルギー情報提供システム (REPOS)」

水力発電

【概要】

- 河川の合流点に仮想の発電所を設置し、年間使用可能流量を推計することで年間発電量を算出する、更に最大流量を推計し設備容量を算出する。
- 推計に際し、既存の水力発電所が設置されている箇所の近傍にある仮想発電所は、既に開発済み箇所として評価から除外されている。

推計方法

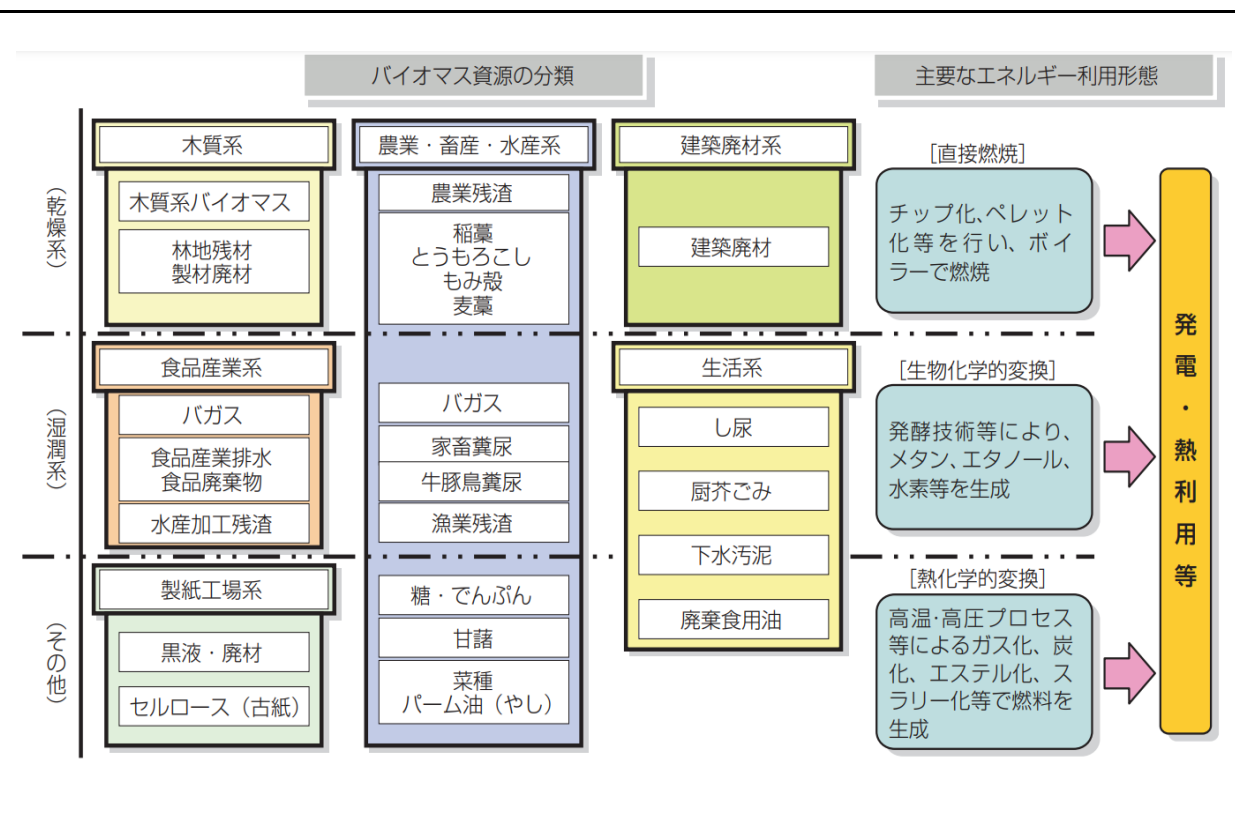


参考資料・出典：環境省「再生可能エネルギー情報提供システム（REPOS）」

バイオマス発電

【概要】

- ・バイオマスとは「再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの」と定義される資源である。動植物などから生まれた生物資源の総称で、間伐材などを使う木質系、糞尿などを使う農業・畜産・水産系、建築廃材系、生ごみなどを使う生活系等、多種多様な種類がある。
- ・バイオマス発電は燃やす燃料とその燃焼方法によって「直接燃焼」、「生物化学的変換（含水系）」、「熱化学的変換（乾燥系）」の大きく3つの種類に分かれる。エネルギー利用として燃焼させるとCO₂が発生するが、これは森林などの生態系が持続的に管理されていれば成長過程で大気中から吸収したCO₂であり、再生可能エネルギーのひとつとして位置づけられている。
- ・バイオマス資源は、基本的に物理的な環境条件のみにより賦存量が規定される太陽光、風力及び地熱等の他の再生可能エネルギーとは異なり、経済社会活動の変化に伴い賦存量が変化するものである。よって、本計画ではポテンシャル推計の対象外とする。



参考資料・出典：資源エネルギー庁「なっとく！再生可能エネルギー」

NEDO「バイオマスエネルギー地域自立システムの導入要件・技術指針（ガイドライン）」

環境省「低炭素社会づくりのためのエネルギーの低炭素化に向けた提言」

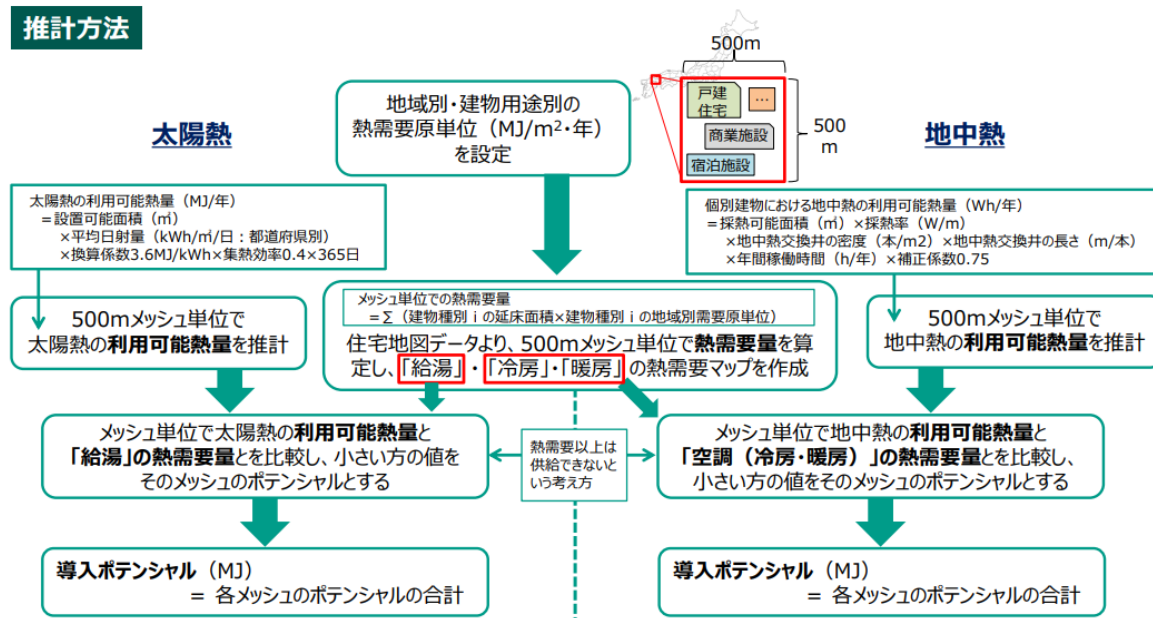
経済産業省「エネルギー白書（2013）」

太陽熱・地中熱

【概要】

- 太陽熱のポテンシャルは、設備の設置可能面積や日射量等から算出した利用可能熱量を 500m メッシュ単位で推計するとともに、当該メッシュの「給湯」の熱需要量と比較した際の小さい方の値をポテンシャルとする方法で推計されている。
- 同様に地中熱のポテンシャルは、採熱可能面積や地中熱交換井の密度等から算出した個別建物における利用可能熱量を 500m メッシュ単位で推計するとともに、当該メッシュの「空調」の熱需要量と比較した際の小さい方の値をポテンシャルとする方法で推計されている。
- 「太陽熱導入ポテンシャル(億 MJ/年)」の数値：0.98 億 MJ/年、
「地中熱導入ポテンシャル(億 MJ/年)」の数値：13.02 億 MJ/年が釧路町のポテンシャルとして示されている。

推計方法



雪冷熱

【概要】

- 雪冷熱は、冬期に降り積もった雪や、冷たい外気により凍結した氷などを、冷熱を必要とする季節まで保管する。その冷気や溶けた冷水を冷熱源としてビルの冷房や、農作物の冷蔵などに利用するエネルギーである。
- 季節をまたいで冷熱を確保するため、断熱性の優れた大きな容量の雪氷貯蔵施設が必要であり、初期投資に多大な施設費や雪を運び込む費用が必要。一方で、冷熱を製造するための燃料費（雪）は、ほとんどかからないという特徴を持つ。
- 冬に積雪のある釧路町においてはポテンシャルが期待されるが、熱量ポテンシャルを推計するデータが乏しいため、本計画ではポテンシャル推計の対象外とする。

参考資料・出典：環境省「再生可能エネルギー情報提供システム（REPOS）」

資料5 CO2 排出・削減量の算出

大項目	小項目	年度	算出方法	出典
現在活動量 【釧路町】	人口	2013～ 2020	2015 年・2020 年は国勢調査の人口、 その他は住民基本台帳の人口を採用	北海道 住民基本台帳人口・世帯数
	世帯数	2013～ 2018	2015 年・2021 年は国勢調査の人口、 その他は住民基本台帳の人口を採用	北海道 住民基本台帳人口・世帯数
	従業者数	2013	RESAS の 2012 年、2014 年、2016 年の業種ごとの従業者数のトレンドを用い て推計	RESAS 産業構造マップ 従業者数 (事業所単位)
	旅客用 自動車数	2013	市区町村別軽自動車車両数、市区町村 別自動車保有車両台数の旅客用自動 車数を合算して算出 (旅客用自動車：軽乗用車、乗合用普 通車、乗合用小型車、乗用普通車、乗 用小型車)	軽自動車：「市区町村別軽 自動車車両数」(全国軽自動 車協会連合会) 自動車：「市区町村別自動 車保有車両台数」(一般財団 法人自動車検査登録情報協 会)
	貨物用 自動車数	2013	市区町村別軽自動車車両数、市区町村 別自動車保有車両台数の貨物用自動 車数を合算して算出 (貨物用自動車：四輪貨物トラック、四 輪貨物バン、三輪貨物トラック、貨物用普 通車、貨物用小型車)	軽自動車：「市区町村別軽 自動車車両数」(全国軽自動 車協会連合会) 自動車：「市区町村別自動 車保有車両台数」(一般財団 法人自動車検査登録情報協 会)
将来活動量 【北海道】	人口	2020～ 2045	人口問題研究所の『日本の地域別将来 推計人口』（平成 30（2018）年推 計）の 2015～45 年の推計値を使用	人口問題研究所
	人口	2050	人口問題研究所の『日本の地域別将来 推計人口』（平成 30（2018）年推 計）の 2015～45 年の推計値のトレンド を用いて推計	人口問題研究所
	世帯数	2020～ 2040	人口問題研究所の『日本の世帯数の将 来推計（都道府県別推計）』の推計値 を使用	人口問題研究所
	世帯数	2045 2050	人口問題研究所の『日本の世帯数の将 来推計（都道府県別推計）』の 2020～2040 年度人口推計値のトレンド を用いて推計	人口問題研究所
将来活動量 【釧路町】	人口	2020～ 2050	「釧路町人口ビジョン」p38 釧路町の将 来展望人口の数値を使用	釧路町将来ビジョン
	世帯数	2025～ 2050	上記の釧路町人口、北海道人口、北海 道世帯数の推計値を用いて以下の式で 算出 釧路町人口×(北海道世帯数÷北海道 人口)	

大項目	小項目	年度	算出方法	出典
将来活動量 【釧路町】	従業者数 旅客用 自動車数 貨物用 自動車数	2020 2030 2050	2013 年度を基準として以下の式で算出 2013 年度従業員数×(将来人口÷ 2013 年度)	
現在 CO2 排出量 【釧路町】	産業部門 業務部門 家庭部門 運輸部門 廃棄物部門	2013	自治体排出量カルテの値を使用	自治体排出量カルテ
	産業部門、 業務部門の 排出量内訳	2013	自治体排出量カルテの CO2 排出量を業 種の従業者数で按分 部門ごとの CO2 排出量×(各業種の従 業者数÷部門全体の従業者数)	
	単位活動量当 たりの CO2 排出 量	2013	上記の CO2 排出量と活動量を用いて以 下の式で算出 CO2 排出量÷活動量	
BAU 排出量 【釧路町】	各部門	2030 2050	以下の式で算出 2013 年度単位活動量当たりの CO2 排 出量×将来活動量	
将来推計用 パラメータ	系統電力におけ る CO2 排出量 削減率	2030 2050	ほくでんグループ「2050 年カーボンニュート ラル」を目指して、p.5 の目標値を使用 (2013 年度比で 2030 年度に-50%以 上、2050 年度カーボンニュートラルの実 現を目指す)	北海道電力
	省エネ削減目標	2013~ 2050	資源エネルギー庁『日本の省エネルギー政 策について』P.5 のエネルギーの使用の合 理化等に関する法律（省エネ法）のエネ ルギー消費効率改善の目標(年 1%)を 使用	経済産業省 資源エネルギー庁
	ZEB エネルギー 削減率(業務部 門)	2013~ 2050	環境省の『地方公共団体における長期の 脱炭素シナリオ作成方法とその実現方策 に係る参考資料 Ver1.0』、P.71 の省エ ネ率を使用	環境省
	エネルギー消費 に占める照明の 割合(家庭・業 務部門)	2013~ 2050	資源エネルギー庁の省エネポータルサイトの 「家庭の用途別消費の推移」の 2018 年 度の「動力・照明他」の割合を家庭・業務 部門のエネルギー消費に占める照明の割 合とし、2013~2050 年においてこの割 合は一定であると仮定して使用	経済産業省 資源エネルギー庁
	LED エネルギー 効率(業務・家 庭部門)	2013~ 2050	環境省の COOL CHOICE の HP に記 載のある、LED シーリングの省エネ性能を 使用(蛍光灯シーリングライトと比較して 50%省エネ)	環境省
	ZEH エネルギー 削減率(家庭部 門)	2013~ 2050	環境省の『地方公共団体における長期の 脱炭素シナリオ作成方法とその実現方策 に係る参考資料 Ver1.0』、P.71 の省エ ネ率を使用	環境省

大項目	小項目	年度	算出方法	出典
将来推計用 パラメータ	旅客用自動車 数の内燃機関 自動車・電気自 動車・水素自動 車割合	2013	自動車検査登録情報協会『我が国の自 動車保有動向』の値を使用し、以下の式 で算出 旅客用電動自動車保有台数÷全旅客 用自動車数 ※旅客用自動車：乗用車、乗合者、特 殊車	自動車検査登録情報協会
	貨物用自動車 数の内燃機関 自動車・電気自 動車・水素自動 車割合	2013	自動車検査登録情報協会『我が国の自 動車保有動向』の値を使用し、以下の式 で算出 旅客用電動自動車保有台数÷全旅客 用自動車数 ※旅客用自動車：乗用車、乗合者、特 殊車	自動車検査登録情報協会
	スギ(60 年生前 後)の 1 年あた りの炭素吸収量	2013～ 2050	人工森林を 60 年生前後と仮定し、森林 総合研究所の『1 年当たりの森林の林木 (幹・枝葉・根) による炭素吸収の平均 的な量』の値 1.1t/ha・年を使用 ※人工林の主要樹木がスギであるため、 人工林の 100%がスギであると仮定 ※平均的な人工林の樹齢が 60 年程度 のため、年度に関わらず 60 年生前後で あると仮定	森林総合研究所 林野庁
	天然林広葉樹 (80 年生前後) の 1 年あたりの 炭素吸収量	2013～ 2050	天然林を 80 年生前後と仮定し、森林総 合研究所の『1 年当たりの森林の林木 (幹・枝葉・根) による炭素吸収の平均 的な量』の値 0.1t/ha・年を使用 ※釧路町の天然林は広葉樹・針葉樹混 成であるが 100%広葉樹であると仮定 ※平均的な北海道の天然林の樹齢が 80 年程度のため、年度に関わらず 80 年 生前後であると仮定	森林総合研究所 令和 2 年度北海道内の森林 管理署等の重点取組事項 林野庁
	1 年あたりの森 林による炭素吸 収量	2013～ 2050	以下の式で算出 $44/12 \times (\text{天然森林面積} \times \text{天然林広葉樹(80 年生前後)の 1 年あたりの炭素吸収量} + \text{人口森林面積} \times \text{スギ(60 年生前後)の 1 年あたりの炭素吸収量})$	
	森林増加面積 (人工林・天然 更新)	2030	釧路根室地域森林計画の造林面積目 標を 100%達成すると仮定し、釧路地域 全体に占める釧路町の計画対象森林面 積割合で乗算して算出	「釧路根室地域森林計画書」
	森林増加面積 (人工林・天然 更新)	2050	2021 年～2030 年の 1 年あたり森林増 加面積の値を使用	「釧路根室地域森林計画書」
	町内の再生可 能エネルギー発 電量	2013	自治体排出量カルテの 2014 年の再生 可能エネルギーによる発電電力量を使用	自治体排出量カルテ